

授 業 科 目 名	キャリア研究Ⅰ		
担 当 者 名	専任教員	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1300001	授 業 形 態	演習
学 年	1年	開 講 期	2025年度前期
単 位 数	1	履 修	必修・保育士必修
ナ ン バ リ ン グ	DP4-1-A		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>本授業では、小学校や特別支援学校、幼稚園、保育園等の教員を目指す学生が、地域の伝統行事である「小倉祇園太鼓」をテーマに、地域社会との連携について深く探求します。講義形式の学びだけでなく、小倉祇園太鼓の振興に尽力している地域の方々をゲストスピーカーとして招いたり、実際に太鼓の練習に参加したり、子供たちに太鼓を教える活動を取り入れたりすることで、体験的な学びを重視します。全8回の授業を通して、学生は地域文化への理解を深めるとともに、教員として地域社会と連携し、子供たちの成長を支えるための実践的な力を身に付けることをめざします。</p>		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	<p>1.社会に開かれた教育課程の意義を理解し、小学校教員としての地域社会との連携の重要性を認識する。</p> <p>2.小倉祇園太鼓の振興に努める地域の方々の情熱や思いに触れ、地域文化継承の意義や指導方法を学ぶ。</p> <p>3.地域の方々や子供たちや子供たちとの交流を通して、コミュニケーション能力、協調性、主体性を育成する。</p>		
授 業 計 画	準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間		
1	社会に開かれた教育課程の意義を理解し、小学校教員としての地域社会との連携の重要性を認識する。	社会に開かれた教育課程とは何かを予習しておく。	
2	小倉祇園太鼓の歴史、文化的背景、地域における役割について理解を深める。	小倉祇園太鼓の歴史や文化的背景、地域における役割について予習しておく。	
3	小倉祇園太鼓の振興に努める地域の方々の情熱や思いに触れ、地域文化継承の意義を学ぶ。	小倉祇園太鼓の振興に努めている地域の方々の想いを予想する。	
4	小倉祇園太鼓を地域の子供たちに伝承している場面に出かけ、地域の方々の思いに触れる。	小倉祇園太鼓を地域の子供たちに伝承している方々の想いを聴取する。	
5	小倉祇園太鼓を地域の子供たちに伝承している場面に出かけ、地域の方々の思いに触れる。	小倉祇園太鼓を地域の子供たちに伝承している方々の想いを聴取する。	
6	小倉祇園太鼓を地域の子供たちに伝承している場面に出かけ、地域の方々の思いに触れる。	小倉祇園太鼓を地域の子供たちに伝承している方々の想いを聴取する。	
7	小倉祇園太鼓を地域の子供たちに伝承している場面に出かけ、地域の方々の思いに触れる。	小倉祇園太鼓を地域の子供たちに伝承している方々の想いを聴取する。	
8	小倉祇園太鼓を通じた学びを自己のキャリア観と結びつけ、地域社会に貢献できる教員としての意識を高める。	本学修を通しての気づきや学びをまとめる。	
9			
10			
11			
12			

13		
14		
15		
<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>		
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>		
社会に開かれた教育課程の意義を理解できる。	小倉祇園太鼓の振興に努める地域の方々の思いから、地域文化継承の意義を学ぶことができる。	仲間の方や子供たちとの交流を通して、主体的なコミュニケーション能力を身に付けることができる。
学修への参加態度（30%）	小倉祇園太鼓に関するプレゼン資料（30%）	学修後のレポート（40%）
<b>使用テキスト</b>		
書籍名	著者	出版社
小学校学習指導要領解説「総則」編 平成29年告示	文部科学省	文部科学省
<b>参考書又は参考資料等</b>		
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕</b>		
<b>担当教員の連絡先等</b>		
担当教員E-mail	その他	

授 業 科 目 名	キャリア研究Ⅱ		
担 当 者 名	専任教員	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1300002	授 業 形 態	演習
学 年	1年	開 講 期	2025年度後期
単 位 数	1	履 修	必修
ナ ン バ リ ン グ	DP4-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員について〕	小学校や幼稚園の教員を目指す学生が、小学校・幼稚園教育への理解を深め、教職への意欲を確立し、今後の動機づけを図ることを目的とした体験実習を行う。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<p>小学校1：1日の流れの中で、教員とこどものかかわり、子供相互のかかわりを観察し、教員の基本的な役割、こどもの様子を理解する。</p> <p>幼稚園1：1日の流れの中で、遊びを通した学び、教員の環境構成を観察し、遊びを通した学びの重要性、教員の環境構成の役割を理解する。</p> <p>小学校2：教科の授業を参観し、教科の授業の流れや教員の授業の進め方、こどもの学びを理解する。</p> <p>幼稚園2：活動を参観し、活動におけるこどもの主体性や教員の適切な援助の仕方を理解する。</p> <p>小学校、幼稚園3：実習を通しての学びを整理し、今後の学習への動機づけを高め、教職への意欲を再確認する。</p>		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	小学校：小学校の一日の流れを観察する。（教員の基本的な役割、こどもの様子） 幼稚園：幼稚園の1日の流れを観察する。（教員の基本的な役割、こどもの様子）	実習初日の「問い」（観察の視点）を明確にする。	
2	小学校：小学校の一日の流れの中で、教員とこどものかかわりについて観察する。 幼稚園：幼稚園の一日の流れの中で、教員とこどものかかわりについて観察する。	実習2日目の「問い」（観察の視点）を明確にする。	
3	小学校：授業を参観し、教員の授業の進め方、こどもの学び方を観察する。 幼稚園：こどもの活動を参観し、こどもの主体性や教員の適切な援助の仕方を観察する。	実習3日目の「問い」（観察の視点）を明確にする。	
4	小学校：授業を参観し、教員の授業の進め方、こどもの学び方を観察する。 幼稚園：こどもの活動を参観し、こどもの主体性や教員の適切な援助の仕方を観察する。	実習4日目の「問い」（観察の視点）を明確にする。	
5	小学校：学級経営に関する活動（朝の会、帰りの会、給食指導、清掃指導など）を参観する。 幼稚園：学級経営に関する活動（朝の会、帰りの会、給食指導、清掃指導など）を参観する。	実習5日目の「問い」（観察の視点）を明確にする。	
6	小学校又は幼稚園の教員との懇談会を実施して、教員のやりがいや苦勞、日々の心がけなどを聴取する。	懇談会に向けた事前の準備や先生方との連絡調整を行う。	

7	小学校また幼稚園で、簡単な活動（例：絵本の読み聞かせや簡単なゲームなど）を体験する。	簡単な活動のための準備を行う。（説明のための資料やルール、遊び方を示した資料、読み聞かせの図書の用意など）
8	実習全体の振り返りを行い、今後の学習計画を立てる。	これまでの実習での学びを振り返る資料を作成する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

### 準備学習・事後学習等についての補足説明

実習期間中は「実習日誌」を書き、参観の「問い」を立てたり、問いの回答を書いたりする。

### 成績評価の方法〔評価項目と割合〕

教員の仕事のやりがいや魅力、難しさや課題について具体的に理解できる。 授業や保育活動、教員の振る舞いを注意深く観察し、記録する力を養う。 教育現場での体験を通して、今後の大学での専門科目の学習に対する興味・関心を深める。

実習への参加態度（40%）	実習期間中の観察記録（30%）	実習日誌の内容（30%）
---------------	-----------------	--------------

### 使用テキスト

書籍名	著者	出版社
小学校学習指導要領 幼稚園教育要領	文部科学省	文部科学省

### 参考書又は参考資料等

### その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

実習後にリフレクションを行い、実習における気づきを明らかにする。

### 担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	人権教育概論		
担 当 者 名	山田 俊之	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	1300004	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2025年度後期
単 位 数	2	履 修	必修・保育士必修
ナ ン バ リ ン グ	DP3-1-B		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>「ダイバーシティとインクルージョン」について人権教育の視点から理解を深め、教育者として身に付けておくべきインクルーシブ教育や合理的配慮を含めた人権について考える。また同和教育についても、歴的背景から学び部落差別の現実についても学習する。</p> <p>各時間ごとにテーマを決め、資料についてグループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションを行う。</p> <p>授業後、学んだこと関心をもったことに関してレポートをまとめる。</p>		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	現代の「ダイバーシティとインクルージョン」について理解を深め、教育者として人権のあり方について考えを深める。		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1 「人権教育とは何か」についてそれぞれの考えを出し合いディスカッションをする	事前：初回は事前学習不要 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(180分)		
2 世界的潮流である「ダイバーシティとインクルージョン」について考える	事前：予告した内容の予習(90分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)		
3 法務省・文部科学省編『人権教育・啓発白書』を基に人権問題の現状と課題を考える	事前：予告した内容の予習(90分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)		
4 「今まで小・中・高校で起きたいじめや不登校」の記述①をもとに協議する	事前：予告した内容の予習(90分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)		
5 「今まで小・中・高校で起きたいじめや不登校」の記述②をもとに協議する	事前：予告した内容の予習(90分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)		
6 「今まで小・中・高校で起きたいじめや不登校」の記述③をもとに協議する。	事前：予告した内容の予習(90分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)		
7 学校におけるいじめ問題について文科省の答申などを基に考え、討議する	事前：予告した内容の予習(90分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)		
8 学校における不登校の問題について文科省の答申などを基に考え、討議する	事前：予告した内容の予習(90分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)		
9 人権問題にかかわる道徳教材をグループで出し合い指導法を話し合う	事前：予告した内容の予習(90分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)		

10	人権問題にかかわる道徳教材をグループで出し合い指導法を話し合う	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
11	同和(部落) 差別の歴史や法律について考え、討議する	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
12	同和教育について専門家（ゲスト講師）から話を聞き部落差別の現状について学ぶ。	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
13	特別支援教育（障害者差別）における人権問題について考え、討議する	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
14	特別支援教育と合理的配慮について人権問題の視点から考え討議する。	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
15	講義の全体を振り返り、「人権教育とは何か」を考え、この授業の意義を考える。	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）

#### 準備学習・事後学習等についての補足説明

#### 成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	ディスカッション		
50%	50%		

#### 使用テキスト

書籍名	著者	出版社
随時、人権学習用のレポートや課題について資料を配布する。		

#### 参考書又は参考資料等

令和6年3月[学校教育における人権教育調査研究協力者会議]（文部科学省ホームページより）

- ①新学習指導要領における人権教育の主な関係記述の例
- ②人権教育研究推進事業等における個別的な人権課題の実践事例

**その他**〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

#### 担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	日本国憲法		
担 当 者 名	水野 陽一	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1300101	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2025年度前期
単 位 数	2	履 修	選択必修・幼稚園教諭必修・小学校教諭必修・特別支援学校教諭必修
ナ ン バ リ ン グ	DP3-1-A		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	私たちは日本というひとつの国をつくり、様々なルール、すなわち法律を決めて日々暮らしています。一人ひとりの自由や平等、国を運営していくしくみを定めた法律が日本国憲法です。この授業では、なるべく身近な話題から、憲法の持つ意味や、憲法をめぐる様々な議論を考えていきましょう。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	1. 人権や政治に関する用語を適切に理解する。 2. 人権や政治に関する新聞記事やニュース番組に関心を持つ。 3. 人権や政治に関する様々な議論について、自身の考えを深める。		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	法とは何か	事前：初回は事前学習不要 事後：講義中の内容を復習（180分）	
2	法の解釈・適用	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）	
3	憲法の基本原理	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）	
4	国会	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）	
5	裁判	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）	
6	財産権：お金を借りるということ	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）	
7	教育を受ける権利：奨学金を例に	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）	
8	生存権：生活保護	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）	
9	身体の自由：刑事手続	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）	
10	刑法：適正手続の保障	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）	
11	刑法：罪刑法定主義	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）	
12	刑事裁判制度	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）	
13	個人の尊重とAI	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）	
14	労働者の権利	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）	

15	労働の基準	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）
<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>		
・各回の講義にて、事後学習等について連絡をします。		
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>		
定期試験（筆記試験）		
100%		
<b>使用テキスト</b>		
書籍名	著者	出版社
図録法学入門	堀口 悟郎 編著 斎藤 一久 編著	弘文堂
<b>参考書又は参考資料等</b>		
・必要に応じて講義中に紹介します。		
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕</b>		
・講義中の私語には厳しく注意します。		
<b>担当教員の連絡先等</b>		
担当教員E-mail	その他	

授 業 科 目 名	消費者行動論		
担 当 者 名	林 勝裕	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1300103	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2025年度前期
単 位 数	2	履 修	選択
ナ ン バ リ ン グ	DP3-1-A		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>これまで消費行動については、社会学、心理学、マーケティングなど、様々な観点から研究されている。また、消費行動は外部環境の影響を受けながら常に変化している。特に、2000年代以降のインターネットに関連する情報技術の発展は、消費行動に多大な影響を及ぼしてきた。そこで本講義では、消費行動の諸側面をとりあげ、事例を交えながらその体系的理解を深め、マーケティング活動への応用のための基礎知識を身につけていく。</p>		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	<p>消費行動についての基本的概念・モデル・理論を学習することで、ビジネスなどにおける顧客を理解する能力を身につけることができる。また、マーケティング・データの収集・分析にあたって、消費行動論に基づく体系的アプローチが可能になるようにする。</p>		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	<p>【マーケティングと消費行動】</p> <p>マーケティングと消費行動は相互に密接に関連している。そこで本講義では、マーケティングと消費行動の概要について学習する。</p>	<p>事前：初回は事前学習不要</p> <p>事後：講義中の内容を復習（180分）</p>	
2	<p>【消費行動研究の系譜】</p> <p>本講義では、消費行動研究の発展と推移について検討し、さらに、今日みられる新しい消費行動研究の動向について学習する。</p>	<p>事前：予告した内容の予習（90分）</p> <p>事後：講義中の内容を復習（90分）</p>	
3	<p>【消費行動研究のアプローチ方法】</p> <p>消費行動研究のアプローチの方法では、心理学的アプローチ、計量的アプローチ、解釈的アプローチがある。そこで本講義では、3つの特徴について学習する。</p>	<p>事前：予告した内容の予習（90分）</p> <p>事後：講義中の内容を復習（90分）</p>	
4	<p>【消費者を取り巻く情報取得環境の変化】</p> <p>インターネットの普及は消費行動に大きな影響を与えた。そこで本講義では、消費者を取り巻く情報取得環境の変化とそれに伴う消費行動の変化について学習する。</p>	<p>事前：予告した内容の予習（90分）</p> <p>事後：講義中の内容を復習（90分）</p>	
5	<p>【消費行動と消費パターンの分析】</p> <p>基本的な分析単位である家族と家計の捉え方を整理することから始め、生活構造や生活意識と関連づけて消費行動を分析するための視点として、ライフサイクル、ライフスタイル、ライフコースという3つの分析アプローチについて学習する。</p>	<p>事前：予告した内容の予習（90分）</p> <p>事後：講義中の内容を復習（90分）</p>	

6	<p><b>【消費者行動の変化とその諸相(1)】</b> 消費者を取り巻く環境要因の変化が、生活構造や生活意識の変化を経由するなどして、消費行動や購買行動に影響を与えるメカニズムについて学習する。</p> <p>1. 消費者を取り巻く環境要因の変化 2. 個人化する家族、多様化する世帯</p>	<p>事前：予告した内容の予習 (90分) 事後：講義中の内容を復習 (90分)</p>
7	<p><b>【消費者行動の変化とその諸相(2)】</b> 1. 時間コストを増大させる諸要因 2. 市場需要への影響、多様化する消費の諸相</p>	<p>事前：予告した内容の予習 (90分) 事後：講義中の内容を復習 (90分)</p>
8	<p><b>【購買意思決定の分析】</b> 消費者のさまざまな行動の背後には、意思決定とよばれる情報処理が存在している。そこで本講義では、伝統的な意思決定理論と消費者の現実の情報処理の多様性について学習する。</p>	<p>事前：予告した内容の予習 (90分) 事後：講義中の内容を復習 (90分)</p>
9	<p><b>【消費者行動のプロセス】</b> 消費者行動プロセスを購買前行動、購買行動（購買意思決定）、購買後行動の3段階に大別して学習する。</p>	<p>事前：予告した内容の予習 (90分) 事後：講義中の内容を復習 (90分)</p>
10	<p><b>【インターネットが変える消費者行動(1)】</b> インターネットの登場により大きく変化する情報メディア環境の中で広がる消費者間の相互作用の問題に焦点を当て学習する。</p> <p>1. インターネットの登場とその変遷 2. 能動化する消費者、広がる相互作用</p>	<p>事前：予告した内容の予習 (90分) 事後：講義中の内容を復習 (90分)</p>
11	<p><b>【インターネットが変える消費者行動(2)】</b> 1. 情報メディア環境の構図 2. 新たな情報過負荷の発生</p>	<p>事前：予告した内容の予習 (90分) 事後：講義中の内容を復習 (90分)</p>
12	<p><b>【消費者のメディア接触の変化】</b> ネット上のコミュニケーションとマス・コミュニケーションの量と質の両面における変化に着目し、メディア環境の変化について学習する。</p>	<p>事前：予告した内容の予習 (90分) 事後：講義中の内容を復習 (90分)</p>
13	<p><b>【購買意思決定の特性とマーケティング】</b> 有効なマーケティングのあり方とは、どのようなものを動機づけや能力といった要因別に整理していくことを学習する。</p>	<p>事前：予告した内容の予習 (90分) 事後：講義中の内容を復習 (90分)</p>
14	<p><b>【購買意思決定とインターネット】</b> インターネットの登場により、消費者の購買行動は大きく変化したことは直感的に理解できる。そこで本講義では、インターネットに関連したコンタクト・ポイントを独立させ学習する。</p>	<p>事前：予告した内容の予習 (90分) 事後：講義中の内容を復習 (90分)</p>
15	<p><b>【消費者行動研究のこれから】</b> 最後に、消費者行動研究の現状と新しい研究動向を概観する。 まとめと総括：これまで学んだことをまとめ、総括する。</p>	<p>事前：予告した内容の予習 (90分) 事後：講義中の内容を復習 (90分)</p>

準備学習・事後学習等についての補足説明			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
定期試験	課題レポート	授業への取り組み	
60%	20%	20%	
使用テキスト			
書籍名		著者	出版社
適宜プリント資料を配布するので、教科書は特に指定しない。			
参考書又は参考資料等			
必要に応じて 講義中に提示する。			
その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕			
担当教員の連絡先等			
担当教員E-mail		その他	

授 業 科 目 名	美術		
担 当 者 名	都 留 守	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1300201	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2025年度前期
単 位 数	2	履 修	選択
ナ ン バ リ ン グ	DP3-1-A		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>「対話による美術鑑賞」と「表現活動」を一体化した授業を行う。</p> <p>この演習では、公立学校教諭・北九州市教育委員会指導主事としての職務経験を有する教員が、公立学校での指導経験・研修歴を生かして授業を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>『見つめる、感じる、考える Watch Feel Think』の活動から生まれた各自の意見を交流し合う。</li> <li>芸術作品のテーマや作者の思いに迫り、自己の価値観を高め・深め・広げる鑑賞を行う。</li> <li>意見の交流を通して、自己の相対比や他者理解が促す。</li> <li>学習者が発見し関心をもった課題を全員で考え、共同で知識を構成していく。</li> <li>鑑賞活動を通して得た感動や学びをもとに自由に自己表現する。</li> </ol>		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	<p>「美術を通して豊かな感性をもつ人間形成」を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>作品鑑賞を通して、見つめる力・感じる力・考える力を養う。</li> <li>芸術作品と出会って、見つけた課題を自分の言葉で表現する力を養う。</li> <li>他者の意見を受け入れ、自分の見方・感じ方・考え方を高め・深め・広げる。</li> <li>鑑賞を通して得た感動や学びをもとに、自己表現をする力を養う。</li> </ol>		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション「色々な見方、感じ方、表し方を見つける」	事前：「色々な見方、感じ方」について調べる(90分) 事後：「色々な作品」を観た感想を「振り返り」にまとめる(90分)	
2	デューラーの作品「祈りの手」を鑑賞し、鉛筆で「祈りの手」を描こう。	事前：「デューラー」について調べる(90分) 事後：「デューラー」について学んだことを「振り返り」にまとめる(90分)	
3	古賀春江の作品「無題」を鑑賞し、思い付いたお話をもとに次の場面を想像して描こう。	事前：「古賀春江」について調べる(90分) 事後：「古賀春江」について学んだことを「振り返り」にまとめる(90分)	
4	ゴッホが「ひまわり」を鑑賞し、「私のひまわり」をオイルパステルで描こう。	事前：「ゴッホ」について調べる(90分) 事後：「ゴッホ」について学んだことを「振り返り」にまとめる(90分)	
5	マチスの作品「ジャズ」を鑑賞し、コラージュの技法で表現しよう。	事前：「マチス」について調べる(90分) 事後：「マチス」について学んだことを「振り返り」にまとめる(90分)	
6	ドガの作品「マネとマネ夫人像」を鑑賞し、作品の切り取られた部分を表現しよう。	事前：「ドガ」について調べる(90分) 事後：「ドガ」について学んだことを「振り返り」にまとめる(90分)	
7	田中敦子の作品を鑑賞し、丸と線で表現をしよう。	事前：「田中敦子」について調べる(90分) 事後：「田中敦子」について学んだことを「振り返り」にまとめる(90分)	

8	白髪一雄の作品を鑑賞し、絵の具と紙粘土で表現しよう。	事前：「白髪一雄」について調べる（90分） 事後：「白髪一雄」について学んだことを「振り返り」にまとめる（90分）
9	糸園和三郎の作品「老婦と子ども」を鑑賞し、「過去・現在・未来」を表現しよう。	事前：「糸園和三郎」について調べる（90分） 事後：「糸園和三郎」について学んだことを「振り返り」にまとめる（90分）
10	一原有徳の作品を鑑賞し、モノプリントで表現しよう。	事前：「一原有徳」について調べる（90分） 事後：「一原有徳」について学んだことを「振り返り」にまとめる（90分）
11	ピカソの作品を鑑賞し、オイルパステルで「自画像」を表現しよう。	事前：「ピカソ」について調べる（90分） 事後：「ピカソ」について学んだことを「振り返り」にまとめる（90分）
12	北九州市立美術館の企画展を鑑賞する校外研修の事前研修を行い、研修計画をたてる。	事前：「北九州市立美術館」について調べる（90分） 事後：「北九州市立美術館」について学んだことを「振り返り」にまとめる（90分）
13	北九州市立美術館の企画展を鑑賞する（校外研修）	事前：「企画展」について調べる（90分） 事後：「企画展」について学んだことを「振り返り」にまとめる（90分）
14	北九州市立美術館の企画展を鑑賞する（校外研修）	事前：「企画展」について調べる（90分） 事後：「企画展」について学んだことを「振り返り」にまとめる（90分）
15	木下晋「103年の闘争3 2003」に描かれたものを感じ取ろう。 「美術」のまとめ（レポート）と評価をしよう。	事前：「木下晋」について調べる（90分） 事後：「木下晋」について学んだことを「振り返り」にまとめる（90分）

#### 準備学習・事後学習等についての補足説明

- ・毎時間の授業の「振り返り」と「作品の写真」をWebメールで送信する。
- ・「振り返り」は、毎時間の講義後に提出を求めます。

#### 成績評価の方法〔評価項目と割合〕

作品提出	授業の振り返り・レポート	授業の予習・復習内容	
40%	40%	20%	

#### 使用テキスト

書籍名	著者	出版社
『見つめる 感じる 考える Watch Feel Think』	北九州市立美術館を活用した学習プログラム	
『見つめる 感じる 考える Watch Feel Think』 平成21-23年度科学研究費補助金基盤研究（B）研究課題「対話による意味生成的な美術鑑賞教育の地域カリキュラム開発」報告書		

#### 参考書又は参考資料等

1. 文部科学省『幼稚園教育要領<平成29年告示>』フレーベル館。
2. 厚生労働省『保育所保育指針<平成29年告示>』フレーベル館。
3. 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領<平成29年告示>』フレーベル館。
4. 文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編（平成29年告示）』日本文教出版。
5. 検定教科書『図画工作1・2年（上下）』、『同3・4年（上下）』、『同5・6年（上下）』開隆堂出版。

**その他**〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

--

**担当教員の連絡先等**

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	英語 I		
担 当 者 名	井之上 浩幸	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1300203	授 業 形 態	演習
学 年	1年	開 講 期	2025年度前期
単 位 数	1	履 修	必修・幼稚園教諭必修・小学校教諭・特別支援教諭必修・保育士必修
ナ ン バ リ ン グ	DP3-1-A		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	英語4技能統合型の授業法、「文法指導、コミュニケーション、リーディング、ライティング」を重視した英語教育の実践について基礎的な内容を指導する。また、学習指導案を作成して実際に模擬授業を行い、振り返りを通して英語力の基礎的内容の向上を図る。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	児童の指導に当たる教員として、英語科の学習内容の系統性や教科の本質、授業展開の工夫などを学ぶとともに、具体的な教材に即した学習指導構想を作成し、その成果と課題を踏まえて修正案を提示することができる。		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	第1回：オリエンテーション	Self-introductionを英語で準備すること。	
2	第2回：学習指導要領小学校外国語活動の検討	学習指導要領外国語活動の項目を読んでおくこと。	
3	第3回：学習指導案作成上のポイント説明	学習指導要領の聞くこと話すことについて読んでおくこと。	
4	第4回：小学校教員に求められる英語力	第3回の授業の中で学習項目・課題等については連絡します。	
5	第5回：「文法指導とコミュニケーション活動」の実践的検討 基礎編	高校で学んだ文法事項（時制・不定詞）の復習をしておくこと。	
6	第6回：「文法指導とコミュニケーション活動」の実践的検討 考察	高校で学んだ文法事項（関係詞）の復習をしておくこと。	
7	第7回：コミュニケーション重視の英語教育の実践的構想 基礎編	第6回の授業で課題（聞くこと、話すことの発表）を与える。	
8	第8回：コミュニケーション重視の英語教育の実践的構想 考察	第7回の授業で課題（聞くこと、話すことのやりとり）を与える。	
9	第9回：コミュニケーション重視の英語教育の実践的構想 協議	第8回の授業で課題（聞くこと、話すことの発表とやりとり）を与える。	
10	第10回：タスク活動と4技能統合の基礎	第9回の授業でタスク活動についての課題を与える。	
11	第11回：タスク活動と4技能統合の考察	第10回の授業で4技能についての課題を与える。	
12	第12回：リーディング重視の英語教育の実践（モデル授業）初級レベル遍	第11回の授業で課題について連絡します。	
13	第13回：リーディング重視の英語教育の実践（モデル授業）中級レベル編	第12回の授業で課題について連絡します。	
14	第14回：リーディング重視の英語教育の実践（モデル授業）上級レベル編	第13回の授業で課題について連絡します。	
15	第15回：自己の学習のまとめと今後に向けて（演習）	第14回の授業の中で重要な復習項目について説明する。	
準備学習・事後学習等についての補足説明			

授業の中でできなかった質問やもっと学びたいことがあれば、私のオフィスアワーの時間を積極的に利用してください。

### 成績評価の方法〔評価項目と割合〕

成績評価は、到達目標に基づいて評価する。	授業への積極的な態度を重視する。	暗記項目の定着度は試験にて確認する。	
授業態度（30%）	課題・小テスト（20%）	期末試験（50%）	

### 使用テキスト

書籍名	著者	出版社
検定教科書『Here We Go!（5年生、6年生）』		光村図書

### 参考書又は参考資料等

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説外国語活動・外国語編』

### その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

--

### 担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	英語 II		
担 当 者 名	井之上 浩幸	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1300204	授 業 形 態	演習
学 年	1年	開 講 期	2025年度後期
単 位 数	1	履 修	必修・幼稚園教諭必修・小学校教諭必修・特別支援教諭必修・保育士必修
ナ ン バ リ ン グ	DP3-1-B		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	「英語 I」で、英語 4 技能統合型の授業法、「文法指導、コミュニケーション、リーディング、ライティング」を重視した英語教育の実践について基礎的な内容を指導する。また、学習指導案を作成して実際に模擬授業を行い、振り返りを通して英語の基礎的な内容の向上を図る。「英語 II」では、「英語 I」の学びの基に応用的な内容の向上を図る。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	児童の指導に当たる教員として、英語科の学習内容の系統性や教科の本質、授業展開の工夫などを学ぶとともに、具体的な教材に即した学習指導構想を作成し、その成果と課題を踏まえて修正案を提示することができる。		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	第 1 回：オリエンテーション	Self-introduction を児童の前で 2 分間英語で行う想定での準備をする。	
2	第 2 回：学習指導要領の検討	英語 I で学んだ学習指導要領のポイントを整理しておくこと。	
3	第 3 回：学習指導案作成上のポイント説明（応用）	「聞く・話す」を中心にした外国語活動の作成プランを考へておくこと。	
4	第 4 回：学習指導案作成・検討	課題については、第 3 回の授業の中で連絡する。	
5	第 5 回：「文法指導とコミュニケーション活動」の実践的検討・応用編	高校で学んだ文法事項（時制・完了形）の復習をしておくこと。	
6	第 6 回：「文法指導とコミュニケーション活動」の実践的検討・考察	高校で学んだ文法事項（原級・比較級・最上級）の復習をしておくこと。	
7	第 7 回：コミュニケーション重視の英語教育の実践的構想 応用編	英語 I で「コミュニケーション重視の英語教育」について学んだポイントを復習しておくこと。	
8	第 8 回：コミュニケーション重視の英語教育の実践的構想 考察	復習事項や課題については、第 7 回の授業の中で連絡する。	
9	第 9 回：コミュニケーション重視の英語教育の実践的構想 協議	復習事項や課題については、第 8 回の授業の中で連絡する。	
10	第 10 回：タスク活動と 4 技能統合の応用	英語 I で学んだ「タスク活動と 4 技能統合」についてポイントを整理しておくこと。	
11	第 11 回：タスク活動と 4 技能統合の考察	復習事項や課題については、第 10 回の授業の中で連絡する。	
12	第 12 回：リーディングとライティング重視の英語教育の実践（モデル授業）初級レベル編	予習すべき内容は、第 11 回の授業の中で説明する。	
13	第 13 回：リーディングとライティング重視の英語教育の実践（モデル授業）中級レベル編	予習すべき内容は、第 12 回の授業の中で説明する。	
14	第 14 回：リーディングとライティング重視の英語教育の実践（モデル授業）上級レベル編	予習すべき内容は、第 13 回の授業の中で説明する。	
15	第 15 回：自己の学習のまとめと今後に向けて	「英語 I」と「英語 II」の既習事項のポイントを整理しておくこと。	

準備学習・事後学習等についての補足説明			
授業の中でできなかった質問やもっと学びたいことがあれば、私のオフィスアワーの時間を積極的に利用してください。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
成績評価は、到達目標に基づいて評価する。	授業への積極的な態度を重視する。	暗記項目の定着度は試験にて確認する。	
授業態度（30%）	課題・小テスト等（20%）	期末試験（50%）	
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
検定教科書『Here We Go!（5年生、6年生）』	光村図書		
参考書又は参考資料等			
文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説外国語活動・外国語編』			
その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕			
担当教員の連絡先等			
担当教員E-mail	その他		

授 業 科 目 名	エネルギー代謝学		
担 当 者 名	和辻 智郎	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1300301	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2025年度前期
単 位 数	2	履 修	選択
ナ ン バ リ ン グ	DP3-1-A		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	本授業では、有機物のC-H結合に蓄えられた潜在的なエネルギーとその酸化によるエネルギー放出について学ぶ。生物は有機物を適度な大きさに消化し、細胞内に取り込んだ後、C-H結合に含まれるエネルギーを代謝によって生体エネルギーに変換する。主にデンプンや油脂が、このエネルギー代謝のエネルギー源として機能する。さらに、授業ではエネルギー源や酸素、二酸化炭素などの物質の溶解性の違いについても取り上げる。これによって、私たちが日常的に行う食事や呼吸という生活活動を分子レベルで包括的に理解する。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	我々は、有機物を酸化してエネルギーを得ている。本授業では、主要なエネルギー源である糖質と脂質のエネルギー代謝や消化吸収について学ぶことで、小学6年生理科で学習する「ものの燃え方」「消化と吸収」「呼吸」「消化吸収」「水溶液」「でんぶん」について細かい横断的な知識を身に付けることを目標とする。		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	元素と電子配置	あらゆる物質が原子の組み合わせでできていること、数ある原子が3つの要素（陽子、中性子、電子）でできていることや原子の電子がK殻、L殻に配置されることを理解し、原子番号10までの原子の電子配置を示せるように復習すること（60分）	
2	周期律とイオン	元素の電子配置が周期的であることや元素が安定な電子配置を求めてイオン化することを理解できるまで復習すること（60分）	
3	イオン結合と共有結合	共有結合が電子の共有で成立していること、イオン結合がクーロン力の働きで成立していること、どちらの結合も安定な電子配置であることを理解できるまで復習すること（60分）	
4	電子式	原子の電子配置から電子式及び不対電子の数を導けるまで復習すること（60分）	
5	構造式	水素分子、酸素分子、炭化水素など共有結合から成り立つ分子を構造式で表すこと、また共有結合に単結合や二重結合があることを理解できるまで復習すること（60分）	
6	分子間力	分子間力には水素結合やファンデルワールス力があることについて理解できるように復習すること（60分）	
7	酸化還元反応と極性	共有結合で構成された物質の安定性は極性に影響を受けていることや酸化還元反応後の物質は安定性が増加することを理解できるように復習すること（60分）	
8	物質の三態と溶解	分子間力が物質の三態や溶解に関係することを理解できるまで復習すること（60分）	

9	酸とアルカリ	酸と塩基から水素イオンと水酸化物イオンが生じることや中和反応が進行する理由を理解できるまで復習すること (60分)
10	糖質	糖質と炭水化物の違い、主な糖質、デンプンの性質、ヨウ素デンプン反応について理解できるまで復習すること (60分)
11	糖質の消化と吸収	食品の主な糖質であるデンプン、スクロース、ラクトースの消化について、また消化されて単糖となった糖質が膜タンパク質を介して小腸上皮細胞内に吸収されることについて理解できるまで復習すること (60分)
12	食後の糖質の体内動態	食後、血糖値が上昇するとインスリンが分泌され、血糖値が低下する。このとき、肝臓と筋肉ではグルコースからグリコーゲンを合成すること、肝臓と脂肪組織ではグルコースから中性脂肪を合成すること、またグリコーゲン合成の代謝経路について理解できるまで復習すること (60分)
13	空腹時の糖質の体内動態	空腹時、血糖値が低下するとグルカゴンとアドレナリンが分泌され、血糖値が上昇する。このとき、肝臓と筋肉ではグリコーゲンを分解すること、脂肪組織では中性脂肪を分解すること、また肝臓と筋肉におけるグリコーゲン分解の代謝経路と差異について理解できるまで復習すること (60分)
14	呼吸 (解糖系)	生物の基本的なエネルギー代謝である解糖系において、基質レベルのリン酸化であること、酸素を必要としないこと、有機物から水素が引き抜かれることを理解できるまで復習すること (60分)
15	呼吸 (クエン酸回路と電子伝達系)	酸素呼吸の場であるミトコンドリアに取り込まれたピルビン酸は酸素利用によって二酸化炭素と水になるが、ピルビン酸と酸素が直接反応しない仕組みや酸化的リン酸化について理解できるまで復習すること (60分)

#### 準備学習・事後学習等についての補足説明

#### 成績評価の方法〔評価項目と割合〕

期末試験 (100%)			

#### 使用テキスト

書籍名	著者	出版社
スライドをプリントしたものと確認問題を配布		

#### 参考書又は参考資料等

石堂一巳編『生化学』南江堂

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

担当教員の連絡先等	
担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	統計学		
担 当 者 名	松本 明夫	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1300302	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2025年度前期
単 位 数	2	履 修	選択
ナ ン バ リ ン グ	DP3-1-A		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	統計学は、データを客観的に分析し、意味のある事柄を導き出すための重要な手段である。本講義では特に、心理学や教育学のアンケート調査でよく用いられる統計学の手法を解説し、実際に使えるようになることを目的とする。その際、無料で公開されている統計ソフトを用いてデータ処理を繰り返し行いながら、ピアインストールも活用していく。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	1) パラメトリック検定を理解し、活用することができる 2) ノンパラメトリック検定を理解し、活用することができる 3) 相関係数と回帰分析を理解し、活用することができる 4) 因子分析を理解し、活用することができる		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	統計学とは	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること (90分) 事後：レポートを作成すること (90分)	
2	尺度水準	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること (90分) 事後：レポートを作成すること (90分)	
3	記述統計	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること (90分) 事後：レポートを作成すること (90分)	
4	推測統計	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること (90分) 事後：レポートを作成すること (90分)	
5	t 検定	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること (90分) 事後：レポートを作成すること (90分)	
6	1 要因分散分析	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること (90分) 事後：レポートを作成すること (90分)	
7	2 要因分散分析	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること (90分) 事後：レポートを作成すること (90分)	
8	相関係数とその検定	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること (90分) 事後：レポートを作成すること (90分)	
9	単回帰分析	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること (90分) 事後：レポートを作成すること (90分)	
10	重回帰分析	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること (90分) 事後：レポートを作成すること (90分)	
11	因子分析	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること (90分) 事後：レポートを作成すること (90分)	
12	$\chi^2$ 検定とフィッシャーの正確検定	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること (90分) 事後：レポートを作成すること (90分)	
13	マンホイットニー検定・クラスカルウォリス検定	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること (90分) 事後：レポートを作成すること (90分)	
14	ウィルコクソン検定・フリードマン検定	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること (90分) 事後：レポートを作成すること (90分)	

15	まとめ	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：定期試験に向けて、復習に励むこと（90分）	
<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備学習として教科書を読み、理解できない点に下線を引くなどピックアップしておくこと。</li> <li>・事後学習としてレポートを作成すること。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>			
リアクションペーパー	レポート	定期試験	
20%	30%	50%	
<b>使用テキスト</b>			
書籍名	著者	出版社	
『Excelで今すぐはじめる心理統計－簡単ツールHADで基本を身につける 第2版』	小宮あすか他	講談社	
<b>参考書又は参考資料等</b>			
『統計学がわかる』 向後千春ほか 技術評論社			
『統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】』 向後千春ほか 技術評論社			
『フリー統計ソフトEZRでカンタン統計解析』 神田善伸 オーム社			
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義中に配布・回収するリアクションペーパーには講義に関する意見・感想・質問・要望等を記入すること。</li> <li>・次回の講義時にリアクションペーパーに対してレスポンスを返します。</li> </ul>			
<b>担当教員の連絡先等</b>			
担当教員E-mail	その他		

授 業 科 目 名	化 学		
担 当 者 名	戸田 晶久	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1300304	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2025年度後期
単 位 数	2	履 修	選択
ナ ン バ リ ン グ	DP3-1-B		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>化学は生活の中に大きく拘わっており、この授業では、教養科目としての理科・科学の範疇として極めて重要である。本講義での化学は物質の構造とその性質を学ぶことにある。化学結合と物質の構造、酸塩基反応および酸化還元反応なども理解し、学童、生徒などに理科の領域における化学の楽しさや興味を高める一助とすることを目的とする。授業では、グループディスカッションやディベートを取り入れながら学習する。講義の終わりに小テストを配布して、講義のポイントを復習させる。</p>		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	<p>1) 化学結合と物質の構造を習得し、説明できる。 2) 酸塩基反応を習得し、説明できる。 3) 酸化還元反応を習得し、説明できる。</p>		
授 業 計 画	準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間		
1	物質の構成粒子と物質の分類：原子構造、分子等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）	
2	物質と化学反応式Ⅰ：原子の相対的質量と原子量等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）	
3	物質と化学反応式Ⅱ：化学反応における諸法則等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）	
4	原子の性質と周期律Ⅰ：原子モデル等について	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）	
5	原子の性質と周期律Ⅱ：原子の電子配置等について	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）	
6	原子の性質と周期律Ⅲ：原子の性質と周期表等について	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）	
7	化学結合とその種類Ⅰ：化学結合と電気陰性度等について	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）	
8	化学結合とその種類Ⅱ：化学結合の種類等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）	
9	共有結合と分子の形状Ⅰ：原子軌道と軌道混成等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）	

10	共有結合と分子の形状Ⅱ：混成軌道と分子形等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
11	化学平衡：平衡状態といろいろな平衡、質量作用の法則等について	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
12	酸塩基酸と塩基反応：アレニウス、ブレンステッドの酸と塩基等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
13	酸塩基平衡と水素イオン濃度：水のイオン積等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
14	酸化還元反応：酸化と還元、酸化還元反応等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
15	まとめ	事前：ディベートに向け、初回～14回の内容についてノートを活用し復習する。（90分） 事後：レポートへのフィードバック及びノートを活用し、講義全体を復習する。（90分）

#### 準備学習・事後学習等についての補足説明

- 1) 前期で基礎化学を受講した学生は、夏期休暇を利用して復習をしておくこと。
- 2) 授業で実施したまとめ小テストは、必ず復習して理解するように努めてください。
- 3) 次の授業までに学習するホームワークを各自に配布し、次の授業でその内容を解説後、提出する。

#### 成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験（筆記試験）	授業態度評価（出席、小テスト、レポート等）		
80%	20%		

#### 使用テキスト

書籍名	著者	出版社
〈基礎固め〉 化学 第二版	小島一光	化学同人

#### 参考書又は参考資料等

- 1) 必要に応じて適宜資料を配布する。
- 2) 参考書：「化学はじめの一步シリーズ1 化学基礎」 北條博彦・渡辺正 著（化学同人）

#### その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

- 1) 授業内容に理解できない箇所がある場合は質問するか、オフィスアワー時に、質問に来てください。
- 2) ホームワークは、必ず理解し学習して下さい。

#### 担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	コンピュータリテラシー I		
担 当 者 名	的野 和靖	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	1300305	授 業 形 態	演習
学 年	1年	開 講 期	2025年度後期
単 位 数	1	履 修	<small>必修・幼稚園教諭必修・小学校教諭必修・特別支援教諭必修・保育士必修</small>
ナ ン バ リ ン グ	DP3-1-B		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	大学のレポート作成や、社会人となった後のオフィスワークでも、Microsoft Wordが使用されるのが一般的です。システムエンジニアとしての職務経験を有する教員として、社会で求められる情報セキュリティやコンプライアンスを身に付けるとともに、コンピュータを用いた文書作成などの基本的な操作ができるように指導します。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	<p>コンピュータリテラシーとして、コンピュータの基本構成及び基本的な仕組み、コンピュータを有効活用するための基礎知識を学習する。演習として、コンピュータの基本操作、Webによる情報検索、メールの基礎知識と演習、情報セキュリティ、ファイルシステム、Microsoft Wordの基本操作方法と活用方法などを学び、社会生活などに有効利用していくための基礎知識を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パーソナルコンピュータの基本的な操作ができる。</li> <li>・ ビジネス形式の電子メールの送受信ができる。</li> <li>・ 情報セキュリティに関する基本的な用語が理解できる。</li> <li>・ Microsoft Wordを使用してビジネス文書が作成できる。</li> </ul>		
授 業 計 画	準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間		
1	オリエンテーション：授業の概要と進め方、評価方法、PC教室の利用方法など	事前：シラバスの内容を事前に確認する。(15分) 事後：次回の授業までに講義の内容を復習する。(30分)	
2	コンピュータの基本構成、インターネット・電子メールの仕組み	事前：シラバスの内容を事前に確認する。(15分) 事後：次回の授業までに講義の内容を復習する。(30分)	
3	電子メールの基礎	事前：シラバスの内容を事前に確認する。(15分) 事後：次回の授業までに講義の内容を復習する。(30分)	
4	電子メールの演習（ビジネスメールの演習）	事前：シラバスの内容を事前に確認する。(15分) 事後：次回の授業までに講義の内容を復習する。(30分)	
5	情報セキュリティと情報モラル	事前：シラバスの内容を事前に確認する。(15分) 事後：次回の授業までに講義の内容を復習する。(30分)	
6	Microsoft Wordの基本操作1（データ入力、ページ設定、書式設定、箇条書きなど）	事前：シラバスの内容を事前に確認する。(15分) 事後：次回の授業までに講義の内容を復習する。(30分)	
7	Microsoft Wordの基本操作2（段落、インデント、タブ、均等割り付けなど）	事前：シラバスの内容を事前に確認する。(15分) 事後：次回の授業までに講義の内容を復習する。(30分)	
8	Microsoft Wordの基本操作3（ビジネス文書：社内文書）	事前：シラバスの内容を事前に確認する。(15分) 事後：次回の授業までに講義の内容を復習する。(30分)	
9	Microsoft Wordの基本操作4（ビジネス文書：社外文書）	事前：シラバスの内容を事前に確認する。(15分) 事後：次回の授業までに講義の内容を復習する。(30分)	
10	Microsoft Wordの基本操作5（画像、WordArt、SmartArt、図形など）	事前：シラバスの内容を事前に確認する。(15分) 事後：次回の授業までに講義の内容を復習する。(30分)	
11	Microsoft Wordの基本操作6（図形のある文書）	事前：シラバスの内容を事前に確認する。(15分) 事後：次回の授業までに講義の内容を復習する。(30分)	

12	Microsoft Wordの基本操作7（表、ヘッダー、フッターなど）	事前：シラバスの内容を事前に確認する。（15分） 事後：次回の授業までに講義の内容を復習する。（30分）
13	Microsoft Wordの基本操作8（表のある文書）	事前：シラバスの内容を事前に確認する。（15分） 事後：次回の授業までに講義の内容を復習する。（30分）
14	Microsoft Wordの基本操作9（図形・表のある文書）	事前：シラバスの内容を事前に確認する。（15分） 事後：次回の授業までに講義の内容を復習する。（30分）
15	Microsoft Wordの総合演習とまとめ	事前：シラバスの内容を事前に確認する。（15分） 事後：講義の内容を総復習する。（30分）

#### 準備学習・事後学習等についての補足説明

#### 成績評価の方法〔評価項目と割合〕

課題	小テスト		
50%	50%		

#### 使用テキスト

書籍名	著者	出版社
講義中に適宜資料を配布		

#### 参考書又は参考資料等

適宜指示する。

#### その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

#### 担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	コンピュータリテラシー II		
担 当 者 名	的野 和靖	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	1300306	授 業 形 態	演習
学 年	1年	開 講 期	2025年度後期
単 位 数	1	履 修	<small>必修・幼稚園教諭必修・小学校教諭必修・特別支援教諭必修・保育士必修</small>
ナ ン バ リ ン グ	DP3-1-B		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	大学のレポート作成や、社会人となった後のオフィスワークでも、Microsoft ExcelやMicrosoft PowerPointが使用されるのが一般的です。システムエンジニアとしての職務経験を有する教員として、コンピュータを用いたデータ処理、プレゼンテーション資料作成等の基本的な操作ができるように指導します。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	<p>コンピュータリテラシーとして、データ処理、プレゼンテーション等をMicrosoft officeを使って基本的な作業ができるようになることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Microsoft Excelの基本操作ができる。</li> <li>・ Microsoft Excelの数式や関数を使って目的とする表が作成できる。</li> <li>・ Microsoft PowerPointの基本操作ができる。</li> <li>・ Microsoft PowerPointを使って効果的なプレゼンテーション資料が作成できる。</li> </ul>		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション：授業の概要と進め方、評価方法など	事前：シラバスの内容を事前に確認する。(15分) 事後：次回の授業までに講義の内容を復習する。(30分)	
2	Microsoft Excelの基本操作1 (データ入力、四則演算、合計・平均などの関数)	事前：シラバスの内容を事前に確認する。(15分) 事後：次回の授業までに講義の内容を復習する。(30分)	
3	Microsoft Excelの基本操作2 (関数とは何か、相対参照と絶対参照)	事前：シラバスの内容を事前に確認する。(15分) 事後：次回の授業までに講義の内容を復習する。(30分)	
4	Microsoft Excelの基本操作3 (簡単なグラフ)	事前：シラバスの内容を事前に確認する。(15分) 事後：次回の授業までに講義の内容を復習する。(30分)	
5	Microsoft Excelの基本操作4 (IF関数、RANK関数、並べ替えSORT)	事前：シラバスの内容を事前に確認する。(15分) 事後：次回の授業までに講義の内容を復習する。(30分)	
6	Microsoft Excelの基本操作5 (IF関数の入れ子)	事前：シラバスの内容を事前に確認する。(15分) 事後：次回の授業までに講義の内容を復習する。(30分)	
7	Microsoft Excelの基本操作6 (AND関数、OR関数、NOT関数)	事前：シラバスの内容を事前に確認する。(15分) 事後：次回の授業までに講義の内容を復習する。(30分)	
8	Microsoft Excelの基本操作7 (売上管理表)	事前：シラバスの内容を事前に確認する。(15分) 事後：次回の授業までに講義の内容を復習する。(30分)	
9	Microsoft Excelの基本操作8 (VLOOKUP関数)	事前：シラバスの内容を事前に確認する。(15分) 事後：次回の授業までに講義の内容を復習する。(30分)	
10	Microsoft Excelの総合演習とまとめ	事前：シラバスの内容を事前に確認する。(15分) 事後：次回の授業までに講義の内容を復習する。(30分)	
11	Microsoft PowerPointの基本操作1 (基本操作、プレゼンテーションとは何か)	事前：シラバスの内容を事前に確認する。(15分) 事後：次回の授業までに講義の内容を復習する。(30分)	
12	Microsoft PowerPointの基本操作2 (スライド作成の基本)	事前：シラバスの内容を事前に確認する。(15分) 事後：次回の授業までに講義の内容を復習する。(30分)	
13	Microsoft PowerPointの基本操作3 (作図・作表機能、アニメーションの設定)	事前：シラバスの内容を事前に確認する。(15分) 事後：次回の授業までに講義の内容を復習する。(30分)	

14	Microsoft PowerPointの基本操作4（総合的課題作成）	事前：シラバスの内容を事前に確認する。（15分） 事後：次回の授業までに講義の内容を復習する。（30分）
15	Microsoft PowerPointの総合演習とまとめ	事前：シラバスの内容を事前に確認する。（15分） 事後：講義の内容を総復習する。（30分）

#### 準備学習・事後学習等についての補足説明

#### 成績評価の方法〔評価項目と割合〕

課題	小テスト		
50%	50%		

#### 使用テキスト

書籍名	著者	出版社
講義中に適宜資料を配布		

#### 参考書又は参考資料等

適宜指示する。

#### その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

#### 担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	AI・データサイエンス入門		
担 当 者 名	萩原 勇人	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1300307	授 業 形 態	演習
学 年	1年	開 講 期	2025年度後期
単 位 数	1	履 修	選択
ナ ン バ リ ン グ	DP3-1-B		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>この科目では、AIとデータサイエンスの基礎を深く理解し、実社会での具体的な応用事例を確認するとともに、データサイエンスで頻りに用いられる統計手法について、実践を通じて学ぶ。</p> <p>具体的な学習ツールとしてMS-Excelを利用し、データの収集、前処理、分析を含む統計処理を実施する。授業の後半部では、具体的な活用事例と演習を通して、統計学の基本的な考え方やプロセスを実体験に基づいて理解し、応用能力と問題解決スキルを身に付ける。</p>		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	<p>AI・データサイエンスの基礎理解と実践的応用能力の獲得を目指し、以下に掲げる内容を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. AIとデータサイエンスの基本概念と用語を理解する。</li> <li>2. 統計的手法の基礎を正しく理解し、表現方法としての統計の使い方を身に付ける。</li> <li>3. MS-Excelを用いてデータの収集、処理、分析ができるようになる。</li> <li>4. 実際のデータセットを用いた統計処理の体験を通して、統計の使い方や必要性を理解する。</li> </ol>		
授 業 計 画	準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間		
1	オリエンテーション (AI・データサイエンスの概要と歴史、授業の進め方など)	<p>事前：シラバスを確認し、AI・データサイエンスの基礎概念と歴史を予習する (15分)</p> <p>事後：講義内容のポイントを整理し、ノートをまとめて復習する (30分)</p>	
2	社会で起きている変化 (人とAIの共存、データ活用のプロセスなど)	<p>事前：AIとデータ活用が社会に与える影響に関する資料を調査しておく (15分)</p> <p>事後：授業で取り上げられた社会的変化の具体例を整理し、理解を深める (30分)</p>	
3	データの前処理、統計解析、考察、表やグラフの表現方法	<p>事前：データの前処理方法や表・グラフの作成法について基本情報を確認する (15分)</p> <p>事後：授業で学んだ統計解析の方法をMS-Excelで復習し、演習を行う (30分)</p>	
4	分析手法について1 (MS-Excelの基本的な操作と代表的な数学関数など)	<p>事前：MS-Excelの基本操作と代表的な数学関数を予習する (15分)</p> <p>事後：MS-Excelで学習した内容を実際に操作し、復習する (30分)</p>	
5	分析手法について2 (MS-Excelの検索／行列関数、条件分岐、関数のネストなど)	<p>事前：MS-Excelの検索関数、行列関数、条件分岐などについて予習する (15分)</p> <p>事後：講義で扱った関数をMS-Excelで再確認し、操作手順を復習する (30分)</p>	

6	分析手法について3 (MS-Excelのピボットテーブル・集計、各種グラフなど)	事前：ピボットテーブルの仕組みとMS-Excelでのグラフ作成を事前に確認する (15分) 事後：演習で作成したピボットテーブルやグラフを復習し、再現する (30分)
7	分析手法について4 (標本調査、ヒストグラム、標準偏差、正規分布など)	事前：標本調査、ヒストグラム、標準偏差、正規分布の概念を事前に学習する (15分) 事後：学んだ統計手法をMS-Excelで再演習し、理解度を確認する (30分)
8	分析手法について5 (確率的統計、散布図、外れ値、相関行列、回帰直線など)	事前：散布図、相関分析、回帰分析などの統計手法の基礎知識を確認する (15分) 事後：演習の結果を整理し、分析内容を復習する (30分)
9	データの活用事例に学ぶ1-1 (顧客データの統計的記述から特性を分析する)	事前：顧客データ分析の基本的な手法や目的について事前調査する (15分) 事後：授業で扱った顧客データ分析事例を復習し、MS-Excelで再演習する (30分)
10	データの活用事例に学ぶ1-2 (本当の主要顧客を発見し、売上アップにつなげる)	事前：顧客分析を通じた売上向上の具体事例を調査・整理しておく (15分) 事後：授業内容を復習し、顧客特性を分析する手法を確認する (30分)
11	データの活用事例に学ぶ2 (気象条件との相関を分析し、販売戦略を検討する)	事前：気象条件と販売戦略の相関について事例を調べる (15分) 事後：授業で学んだ内容をもとに、演習内容を再現し復習する (30分)
12	データの活用事例に学ぶ3 (サンプリングによる品質管理を体験する)	事前：サンプリングによる品質管理手法についての基本知識を確認する (15分) 事後：演習内容を復習し、品質管理の統計手法を再確認する (30分)
13	データ活用の実践1 (公的統計を使って、都市計画に挑戦する)	事前：公的統計の基本的な種類と利用方法を事前に調査する (15分) 事後：授業で扱った都市計画に関する統計利用法を整理し、再現する (30分)
14	データ活用の実践2 (作物統計から農業の現状を把握する)	事前：作物統計データの活用事例や農業の現状把握法を予習する (15分) 事後：演習内容をMS-Excelで再確認し、分析方法を復習する (30分)
15	授業の総括 (データを表現する)	事前：授業で扱ったデータ表現手法を総括的に復習し、試験対策を行う (15分) 事後：授業の全体を整理し、理解度を確認するとともに試験準備を行う (30分)

#### 準備学習・事後学習等についての補足説明

#### 成績評価の方法〔評価項目と割合〕

授業時の演習課題	定期試験		
40%	60%		

使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
はじめの第一歩 基礎からはじめるデータサイエンス	【編者】保本正芳	noa出版
参考書又は参考資料等		
1. 「紙と鉛筆で身につける データサイエンティストの仮説思考」翔泳社 2. 「ビジュアル データサイエンティスト 基本スキル84」日経BP 日本経済新聞出版 3. 「データサイエンティスト入門」日経BP 日本経済新聞出版		
その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕		
ノートパソコン必携 (MS-Excelを使用するため)		
担当教員の連絡先等		
担当教員E-mail	その他	

授 業 科 目 名	デジタルメディアリテラシー		
担 当 者 名	萩原 勇人	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1300308	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2025年度後期
単 位 数	2	履 修	選択
ナ ン バ リ ン グ	DP3-1-B		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	本講義では、SNSの普及によって生じる問題点ーネットいじめ、デマ情報の拡散、個人情報の漏えいなどーに焦点を当て、それらに対処する方法を学ぶ。また、デジタルメディアコンテンツに対する適切な理解、ファクトチェックの技術、そして倫理的かつ批判的な思考能力の育成を目指す。さらには、これらの知識をベースにグループ討議やプレゼンテーションを実施し、実践的なスキルを身に付ける。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	<p>情報過多の現代社会において、学生がデジタルメディアを批判的に理解し、効果的に利用するための知識とスキルを獲得することを目指し、以下に掲げる内容を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デジタルメディアの多様性と特性を理解し、情報源の信頼性を判断できるようになる。</li> <li>2. 情報の真偽を見抜き、誤情報に惑わされないようになる。</li> <li>3. デジタルメディアが発信するメッセージを批判的に分析し、独自の視点で情報を取捨選択できるようになる。</li> <li>4. 情報倫理を理解し、情報発信者としての責任を自覚するようになる。</li> <li>5. 情報技術を活用して、創造的に情報発信できるようになる。</li> </ol>		
授 業 計 画	準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間		
1	オリエンテーション（メディアリテラシーの基本 概念、授業の進め方など）	<p>事前：シラバスを事前に確認し、メディアリテラシーの基本概念を予習する（90分）</p> <p>事後：授業内容をまとめ、基本概念を復習する（90分）</p>	
2	デジタルメディアとインターネットを理解するための基礎知識	<p>事前：デジタルメディアおよびインターネットの基本的な仕組みを予習する（90分）</p> <p>事後：学習した基礎知識をノートに整理し、復習する（90分）</p>	
3	情報モラルとデジタルコミュニケーションの理解	<p>事前：情報モラルやデジタルコミュニケーションの問題について事例を調査する（90分）</p> <p>事後：授業内容を振り返り、重要なポイントを復習する（90分）</p>	
4	SNSの役割と影響、フェイクニュースの定義と事例	<p>事前：SNSの影響やフェイクニュースの事例を調査し、事前に整理しておく（90分）</p> <p>事後：授業で取り上げられた事例を整理し、ノートをまとめる（90分）</p>	
5	ファクトチェックの方法、情報の信頼性を評価する基準	<p>事前：ファクトチェックの具体的方法を事前に確認し、情報信頼性の評価基準を予習する（90分）</p> <p>事後：授業での演習内容を復習し、技術を再確認する（90分）</p>	
6	グループ討議1（フェイクニュース事例分析）	<p>事前：グループ討議に向けてフェイクニュースの事例を収集・分析する（90分）</p> <p>事後：討議内容を整理し、得られた意見をまとめる（90分）</p>	

7	情報セキュリティと著作権の理解	事前：情報セキュリティおよび著作権に関する基礎知識を予習する（90分） 事後：授業内容を振り返り、重要な用語を復習する（90分）
8	デジタルメディアと倫理	事前：デジタルメディアの倫理に関する基礎的な資料を調査する（90分） 事後：講義内容を整理し、倫理的視点からまとめる（90分）
9	批判的思考の技術	事前：批判的思考（クリティカルシンキング）に関する資料を読み、基本を確認する（90分） 事後：学んだ技術を実際の事例に適用して復習する（90分）
10	グループ討議2（SNS上での受信・発信）	事前：SNSにおける情報発信・受信の事例を調査・整理し、討議準備を行う（90分） 事後：討議での意見を整理し、議論のポイントを復習する（90分）
11	ソーシャルメディアポリシーの分析	事前：企業や組織のソーシャルメディアポリシーについて事前調査を行う（90分） 事後：講義での分析内容を整理し、理解を深める（90分）
12	グループ討議3（倫理的ジレンマの検討）	事前：倫理的ジレンマに関する事例を調べ、グループ討議の準備を行う（90分） 事後：討議の内容を整理し、ジレンマへの対処法を再確認する（90分）
13	デジタルメディアのバイアスと情報の多角的な視点	事前：メディアバイアスや情報の多角的視点について具体的事例を収集する（90分） 事後：授業での議論を整理し、多角的視点をノートにまとめる（90分）
14	総復習とプレゼンテーション準備	事前：授業全体を総復習し、プレゼンテーションの準備をする（90分） 事後：プレゼンテーションの内容を整理し、練習を行う（90分）
15	学生によるプレゼンテーション及び授業の総括	事前：プレゼンテーションの最終準備と練習を行う（90分） 事後：授業全体を総括し、プレゼンテーションのフィードバックを整理する（90分）

#### 準備学習・事後学習等についての補足説明

#### 成績評価の方法〔評価項目と割合〕

グループ討議及びプレゼンテーション	定期試験		
40%	60%		

#### 使用テキスト

書籍名	著者	出版社
-----	----	-----

【改訂第2版】例題100でしっかり学ぶメディアリテラシー標準テキスト	定平誠	技術評論社
<b>参考書又は参考資料等</b>		
1. 「メディアリテラシー 吟味思考(クリティカルシンキング)を育む」 時事通信社 2. 「10代からの情報キャッチボール入門——使えるメディア・リテラシー」 岩波書店 3. 「メディアリテラシーを学ぶ(大学生の学びをつくる)」 大月書店		
<b>その他</b> 〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕		
<b>担当教員の連絡先等</b>		
担当教員E-mail	その他	

授 業 科 目 名	健康スポーツ科学Ⅰ		
担 当 者 名	原本 賢一	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1300401	授 業 形 態	講義・実技
学 年	1年	開 講 期	2025年度前期
単 位 数	1	履 修	<small>必修・幼稚園教諭必修・小学校教諭必修・特別支援教諭必修・保育士必修</small>
ナ ン バ リ ン グ	DP3-1-A		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	生涯スポーツ（スポーツの生活化）の必要性と具体的方策などについても理論的に学習し今後の生活に活かせるように学習する。また、実技を行う事により学生同士のコミュニケーションや協力・協調を目的とした実践を行う。自分の今後の健康についての考え方を構築する。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	<p>個人及び社会における健康問題を認識するとともに、生涯にわたって運動・スポーツを親しむために必要な科学的知識を学習し運動・栄養・休養の大切さと必要性を理解する。到達目標として</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分の健康について自覚し今後の在り方について考える。運動や健康づくりにおいて、生涯スポーツに対する考察と目標を持たせる。</li> <li>2. グループワークによるコミュニケーション力や協力性・協調性を持てるようにする。</li> <li>3. 自分の体力を自覚し、運動メニューの作成ができるようにする。</li> </ol> <p>ことを目指す。</p>		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	ガイダンス（授業の進め方、評価について）1回 目の健康と生活習慣病検査結果によるグループワーク	事前：現代の健康の問題について調べ学習する。（90分） 事後：学びたいことや疑問点などを書き出しまとめる。（90分）	
2	健康と運動・スポーツの意義と必要性	事前：スポーツの意義と必要性について調べまとめる。（90分） 事後：教材の読み直しおよび学習・実践内容の振り返る。学びたいことや疑問点などを書き出しまとめる。（90分）	
3	健康と運動・スポーツのあり方について	事前：スポーツの有用性についてまとめる。（90分） 事後：教材の読み直しおよび学習・実践内容の振り返る。学びたいことや疑問点などを書き出しまとめる。（90分）	
4	コミュニケーション・ワーク（アイスブレイキングとグループによるレクリエーションゲーム）	事前：アイスブレイクについて調べまとめる。（90分） 事後：教材の読み直しおよび学習・実践内容の振り返る。学びたいことや疑問点などを書き出しまとめる。（90分）	
5	コミュニケーション・ワーク（グループによるレクリエーションゲームと軽スポーツ）	事前：レクリエーションゲームや軽スポーツについて調べまとめる。（90分） 事後：教材の読み直しおよび学習・実践内容の振り返る。学びたいことや疑問点などを書き出しまとめる。（90分）	
6	現在生活における健康と運動・スポーツについて	事前：現代の健康とスポーツの関連について調べまとめる。（90分） 事後：教材の読み直しおよび学習・実践内容の振り返る。学びたいことや疑問点などを書き出しまとめる。（90分）	

7	運動不足の弊害と健康スポーツの基礎と実際	事前：運動不足の弊害と健康スポーツについて調べまとめる。(90分) 事後：教材の読み直しおよび学習・実践内容の振り返る。学びたいことや疑問点などを書き出しまとめる。(90分)
8	運動の仕組みと筋肉・骨について	事前：事前配布資料を熟読し予習を行う。(90分) 事後：教材の読み直しおよび学習・実践内容の振り返る。学びたいことや疑問点などを書き出しまとめる。(90分)
9	トレーニング器具の使い方の説明と自分の体力について	事前：事前配布資料を熟読し予習を行う。(90分) 事後：教材の読み直しおよび学習・実践内容の振り返る。学びたいことや疑問点などを書き出しまとめる。(90分)
10	グループワークによる個人トレーニングメニューの作成と実践	事前：事前配布資料を熟読し予習を行う。(90分) 事後：教材の読み直しおよび学習・実践内容の振り返る。学びたいことや疑問点などを書き出しまとめる。(90分)
11	運動と栄養についてと水分補給の必要性	事前：水分補給の必要性について調べまとめる。(90分) 事後：教材の読み直しおよび学習・実践内容の振り返る。学びたいことや疑問点などを書き出しまとめる。(90分)
12	メタボリックシンドロームとロコモティブシンドロームについて	事前：メタボリックシンドロームとロコモティブシンドロームについて調べまとめる。(90分) 事後：教材の読み直しおよび学習・実践内容の振り返る。学びたいことや疑問点などを書き出しまとめる。(90分)
13	グループによるレクリエーションゲームと軽スポーツ	事前：軽い運動（ウォーキングなど）とストレッチを行い身体をほぐす。(90分) 事後：教材の読み直しおよび学習・実践内容の振り返る。学びたいことや疑問点などを書き出しまとめる。(90分)
14	2回目の健康と生活習慣病検査検査結果によるグループワーク	事後：教材の読み直しおよび学習・実践内容の振り返る。グループワークを行い学びたいことや疑問点などを書き出しまとめる。(180分)
15	授業内容のまとめ	事後：教材の読み直しおよび学習・実践内容の振り返る。グループワークを行い学んだことをまとめる。(180分)

#### 準備学習・事後学習等についての補足説明

#### 成績評価の方法〔評価項目と割合〕

課題小レポート	グループワーク発表	期末試験	
30%	40%	30%	

#### 使用テキスト

書籍名	著者	出版社
講義中に適宜、資料を配布する。		

#### 参考書又は参考資料等

小宮秀一, 中尾武平: 健康行動の科学 身体組成学－栄養・運動・健康－, 技報堂出版, 2002.  
小宮秀一: 体力科学へのアプローチ 身体組成の科学, 不昧堂出版, 1998.  
熊谷秋三, 田中喜代次, 藤井宣晴, 澤田亨, 内藤義彦: 健康と運動の疫学入門-エビデンスに基づくヘルスプロモーションの展開-, 医学出版, 2008.

**その他**〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

**担当教員の連絡先等**

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	健康スポーツ科学 II		
担 当 者 名	原本 賢一	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1300402	授 業 形 態	講義・実技
学 年	1年	開 講 期	2025年度後期
単 位 数	1	履 修	必修・幼稚園教諭必修・小学校教諭必修・特別支援教諭必修・保育士必修
ナ ン バ リ ン グ	DP3-1-B		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	この授業は、一般的に知られているスポーツと健康との関係の科学的根拠について学ぶことである。この授業ではスポーツと健康とのつながりを中心として、スポーツ場面での怪我の予防法や対処法、効率的なトレーニング法、精神面へのスポーツの影響などについて展開していく。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	スポーツと健康の基礎知識を習得し、スポーツが心身の健康づくりに及ぼす効果について理解できるようになる。また、健康運動のポイントを理解できるようになることを目標とする。		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	ガイダンス (授業の評価についてなど) 健康のとりえ方	事前：初回は事前学習不要 事後：講義中の内容を復習 (180分)	
2	体力と健康の関連性について	事前：予告した内容の予習 (90分) 事後：講義中の内容を復習 (90分)	
3	安全にスポーツを行うための必要事項について	事前：予告した内容の予習 (90分) 事後：講義中の内容を復習 (90分)	
4	スポーツ場面での怪我とAEDの使用方法について	事前：予告した内容の予習 (90分) 事後：講義中の内容を復習 (90分)	
5	健康スポーツの基礎について	事前：予告した内容の予習 (90分) 事後：講義中の内容を復習 (90分)	
6	健康スポーツの実際について	事前：予告した内容の予習 (90分) 事後：講義中の内容を復習 (90分)	
7	嗜好品と健康について	事前：予告した内容の予習 (90分) 事後：講義中の内容を復習 (90分)	
8	メタボリックシンドロームと健康スポーツについて	事前：予告した内容の予習 (90分) 事後：講義中の内容を復習 (90分)	
9	オリンピックについて	事前：予告した内容の予習 (90分) 事後：講義中の内容を復習 (90分)	
10	高齢者スポーツについて	事前：予告した内容の予習 (90分) 事後：講義中の内容を復習 (90分)	
11	障害者スポーツの発展と現状について	事前：予告した内容の予習 (90分) 事後：講義中の内容を復習 (90分)	
12	精神障害者スポーツの発展と現状について	事前：予告した内容の予習 (90分) 事後：講義中の内容を復習 (90分)	
13	精神的ストレスとスポーツについて 基礎	事前：予告した内容の予習 (90分) 事後：講義中の内容を復習 (90分)	
14	精神的ストレスとスポーツについて 応用と臨床での報告	事前：予告した内容の予習 (90分) 事後：講義中の内容を復習 (90分)	

15	授業内容のまとめ	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）
<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>		
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>		
課題小レポート	グループワーク発表	期末試験
30%	40%	30%
<b>使用テキスト</b>		
書籍名	著者	出版社
講義中に適宜、資料を配布する。		
<b>参考書又は参考資料等</b>		
<p>小宮秀一, 中尾武平: 健康行動の科学 身体組成学－栄養・運動・健康－, 技報堂出版, 2002.</p> <p>小宮秀一: 体力科学へのアプローチ 身体組成の科学, 不昧堂出版, 1998.</p> <p>熊谷秋三, 田中喜代次, 藤井宣晴, 澤田亨, 内藤義彦: 健康と運動の疫学入門-エビデンスに基づくヘルスプロモーションの展開-, 医学出版, 2008.</p>		
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕</b>		
<b>担当教員の連絡先等</b>		
担当教員E-mail	その他	

授 業 科 目 名	人間関係		
担 当 者 名	寺本 普見子	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1301002	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2025年度後期
単 位 数	2	履 修	幼稚園教諭必修
ナ ン バ リ ン グ	DP2-1-B		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	幼稚園教育要領に示された「人間関係」のねらい及び内容について子どもの姿と保育実践とを関連させて理解を深める。その上で、幼稚園教諭実務経験を通じ、教育現場で遭遇した様々な事例を用い、グループディスカッションを行う。子どもの発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し実践する方法を、情報機器を取り入れながら身に付ける。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	<p>子どもの発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「人間関係」のねらい及び内容並びに全体構想を習得する。</p> <p>2) 領域「人間関係」の特性や子どもの体験との関連を考慮した情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、保育に活かすことを習得する。</p> <p>3) 子どもの育ちに関わる地域の人々との人間関係を習得する。</p> <p>4) 幼児期の集団生活を通して様々な人と関わる経験と、小学校以降の生活や教科等とのつながりについて習得する。</p> <p>5) 領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題を習得する。</p>		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	領域「人間関係」とは 領域「人間関係」に求められるもの	<p>事前：教科書指定範囲を通読しておくこと（11ページ～18ページ）（90分）</p> <p>事後：領域「人間関係」に求められるものについて解釈したことをまとめる（90分）</p>	
2	幼児教育・保育の基本と領域「人間関係」の「ねらい及び内容」	<p>事前：教科書指定範囲を通読しておくこと（19ページ～31ページ）（90分）</p> <p>事後：領域「人間関係」の「ねらい及び内容」について解釈したことをまとめる（90分）</p>	
3	人との関わりの発達 乳時期から幼児期前期の子どもの人間関係の発達	<p>事前：教科書指定範囲を通読しておくこと（34ページ～49ページ）（90分）</p> <p>事後：乳時期から幼児期前期の子どもの人間関係の発達について解釈したことをまとめる（90分）</p>	
4	人との関わりの発達 幼児期前期から幼児期後期の子どもの人間関係の発達	<p>事前：教科書指定範囲を通読しておくこと（50ページ～64ページ）（90分）</p> <p>事後：幼児期前期から幼児期後期の子どもの人間関係の発達について解釈したことをまとめる（90分）</p>	
5	遊びのなかから生まれる人との関わり 遊びと人との関わり	<p>事前：教科書指定範囲を通読しておくこと（66ページ～79ページ）（90分）</p> <p>事後：遊びと人との関わりについて解釈したことをまとめる（90分）</p>	

6	遊びのなかから生まれる人との関わり 道徳性の芽生え	事前：教科書指定範囲を通読しておくこと（80ページ～94ページ）（90分） 事後：道徳性の芽生えについて解釈したことをまとめる（90分）
7	遊びのなかから生まれる人との関わり 対話的な学び	事前：教科書指定範囲を通読しておくこと（95ページ～111ページ）（90分） 事後：対話的な学びについて解釈したことをまとめる（90分）
8	遊びのなかから生まれる人との関わり 協同的な学び	事前：教科書指定範囲を通読しておくこと（112ページ～124ページ）（90分） 事後：協同的な学びについて解釈したことをまとめる（90分）
9	模擬保育、人との関わりを支える保育者の役割と計画 保育におけるICTとは	事前：教科書指定範囲を通読しておくこと（141ページ～161ページ）（90分） 事後：保育におけるICTについて解釈したことをまとめる（90分）
10	人との関わりを支える保育者の計画	事前：指導計画の研究をしておく（90分） 事後：指導計画について解釈したことをまとめる（90分）
11	日々の保育を支える人間関係	事前：指導計画の再確認をしておく（90分） 事後：授業で解釈したことをまとめる（90分）
12	特別なニーズをもつ子どもへの支援	事前：教科書指定範囲を通読しておくこと（175ページ～188ページ）（90分） 事後：授業で解釈したことをまとめる（90分）
13	現代の子どもを取り巻く人間関係 家族の多様化と子どもの人間関係	事前：教科書指定範囲を通読しておくこと（190ページ～205ページ）（90分） 事後：授業で解釈したことをまとめる（90分）
14	現代の子どもを取り巻く人間関係 社会環境の多様性と子どもの人間関係	事前：教科書指定範囲を通読しておくこと（206ページ～217ページ）（90分） 事後：授業で解釈したことをまとめる（90分）
15	まとめ	事前：ノートを整理しておく。（90分） 事後：まとめ15回講義の復讐をする（90分）

#### 準備学習・事後学習等についての補足説明

- ・ノート・ファイルは指定日の講義に提出を求めます。
- ・事前事後学習は必ず行いましょう。

#### 成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	課題レポート・ノート	授業への取組	
70%	20%	10%	

#### 使用テキスト

書籍名	著者	出版社
保育内容 人間関係 子どもの人との関わり保育実践を学ぶ	藪中征代	萌文書林
『幼稚園教育要領解説<平成29年告示>』	文部科学省	フレーベル館

#### 参考書又は参考資料等

<b>その他</b> 〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕	
・毎時間配布されたプリントは クリアファイルに整理して14回目の授業にて提出する。 ・教科書は毎時間持ってくること。	
<b>担当教員の連絡先等</b>	
担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	環境		
担 当 者 名	本田 恵美子、垂見 直樹	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1301003	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2025年度後期
単 位 数	2	履 修	幼稚園教諭必修
ナ ン バ リ ン グ	DP2-1-B		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	子どもを取り巻く環境が、どのように子どもの成長・発達と関連するかを基本的な視点として、子どもにとって望ましい環境のあり方やかわり方について、理論的・実践的に理解することを旨とする。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	(1) 子どもの成長・発達と、社会的環境との関係について理解する。 (2) 子どもの成長・発達と、自然環境との関係について理解する。 (3) 子どもの成長・発達と、人的・物的環境との関係について理解する。		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	子どもの成長・発達と環境【垂見】	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
2	子どもの育ちと社会的環境①家庭の機能と現状【垂見】	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
3	子どもの育ちと社会的環境②現代日本社会における家庭の課題【垂見】	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
4	子どもの育ちと社会的環境③子どもと仲間集団【垂見】	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
5	子どもの育ちと社会的環境④子どもと地域社会【垂見】	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
6	子どもの育ちと社会的環境⑤「こどもまんなか社会」と今後の課題【垂見】	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
7	子どもの育ちと自然環境①子どもの自然体験と資質・能力【本田】	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
8	子どもの育ちと自然環境②身近でできる自然体験【本田】	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
9	子どもの育ちと自然環境③「森のようちえん」で考える保育と自然【垂見】	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
10	子どもの育ちと人的環境①日本の子どもの精神的幸福度、自己肯定感【垂見】	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
11	子どもの育ちと人的環境②肯定的な関わり【垂見】	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
12	子どもの育ちと人的環境③保育者に求められる子どもへの関わり【垂見】	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
13	子どもの育ちと物的環境①「箱んでハイタワー」から学ぶ【垂見】	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
14	子どもの育ちと物的環境②レッジョ・エミリアを題材に【垂見】	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
15	子どもの育ちにとって望ましい保育環境【垂見】	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	

準備学習・事後学習等についての補足説明			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
学期末レポート	各回の小課題・レポート		
70%	30%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
『新訂 事例で学ぶ保育内容 領域環境』	無藤隆監修	萌文書林	
参考書又は参考資料等			
1. 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、平成30年3月			
2. 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館、平成30年3月			
3. 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、平成30年3月			
その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕			
担当教員の連絡先等			
担当教員E-mail	その他		

授 業 科 目 名	言葉		
担 当 者 名	武田 祐子	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1301004	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2025年度後期
単 位 数	2	履 修	幼稚園教諭必修
ナ ン バ リ ン グ	DP2-1-B		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>・領域「言葉」の目的と背景、教師の指導・支援の意味や必要性、役割について理解する。</p> <p>・幼稚園教育要領をはじめ保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等を読み比べ幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿など、広い角度から「言葉」指導に関する知識・技能を習得する。</p> <p>・言葉の持つ機能としての伝達機能や思考機能、行動調整機能、さらに言葉の発達理論や各年齢の発達の特徴、言葉の獲得を支える環境について学習し、指導計画や模擬保育等の在り方に触れ、実践的な場も意識し、総合的な保育改善につながる問題解決能力を身に付け、アクティブラーニングによる意見交換（バズセッション・グループ・ペアワーク・ディスカッション・ディベート等）によって理解を深める。</p> <p>・視覚教材やICT学習を取り入れ、領域「言葉」と他領域との関連、小学校国語科へのつながり、配慮を要する子どもへの支援、幼稚園教育における評価の意味などを通して、保育実践の動向や現代的課題等を理解し保育構想の向上へと取り組む力を習得する。</p>		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	<p>1. 知識・技能の観点</p> <p>・領域「言葉」の基本となる「話す」「聞く」態度を育む。</p> <p>・言語感覚や言葉で表現する力を養うための、教師の指導・支援の意味や必要性や役割を理解している。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力等の基礎を培う能力の観点</p> <p>・言葉の役割としての伝達機能や思考機能、行動調整機能等、基礎的な内容と共に言葉の発達理論や言葉の獲得を支える環境等に取り組むことで、三つの能力の伸長を図り、保育改善につながる問題解決能力を身につけている。</p> <p>3. 主体的な態度の観点</p> <p>・事例研究を通して領域「言葉」についての保育実践の動向や現代的課題等を理解し、保育構想の向上へと取り組む力を習得している。</p>		
授 業 計 画	準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間		
1	幼児教育における領域「言葉」の位置づけ、児童文化財としての絵本	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：講義の内容をテキストで復習する（90分）	
2	領域「言葉」のねらいと内容、内容の取扱い、子どもと絵本の関係	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：講義の内容をテキストで復習する（90分）	
3	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「言葉」と子どもの言葉の発達、乳児期と絵本（ブックスタート）との関係性	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：講義の内容をテキストで復習する（90分）	
4	言葉による伝え合いを育む保育の評価と改善、乳児期の言葉の発達における絵本	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：講義の内容をテキストで復習する（90分）	
5	領域「言葉」と小学校教科国語とのつながり、幼児期の言葉の発達における絵本	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：講義の内容をテキストで復習する（90分）	

6	幼児期における遊びを通した言語活動と教材の事例提示	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：講義の内容をテキストで復習する（90分）
7	言葉の役割としての伝達機能・思考機能・行動調整機能について	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：講義の内容をテキストで復習する（90分）
8	言葉の発達に関して各年齢における発達段階の特徴について	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：講義の内容をテキストで復習する（90分）
9	言語活動におけるICT活用と保育実践の事例提示	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：講義の内容をテキストで復習する（90分）
10	言葉の指導に配慮が必要な幼児への指導について	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：講義の内容をテキストで復習する（90分）
11	領域「言葉」における指導計画と評価の在り方について	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：講義の内容をテキストで復習する（90分）
12	3歳未満児の幼児期における領域「言葉」の理解と獲得について	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：講義の内容をテキストで復習する（90分）
13	3歳以上児の幼児期における領域「言葉」の理解と獲得について	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：講義の内容をテキストで復習する（90分）
14	領域「言葉」をめぐる現代的課題と保育実践	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：講義の内容をテキストで復習する（90分）
15	領域「言葉」をめぐる現代的課題に応える保育の構想	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：講義の内容をテキストで復習する（90分）

#### 準備学習・事後学習等についての補足説明

#### 成績評価の方法〔評価項目と割合〕

小テスト	アクティブラーニングによる課題やレポートへの取り組み		
70%	30%		

#### 使用テキスト

書籍名	著者	出版社
『幼稚園教育要領解説〈平成30年3月〉』	文部科学省	フレーベル館
『保育所保育指針解説〈平成30年3月〉』	厚生労働省	フレーベル館

#### 参考書又は参考資料等

無藤隆（監修）『事例で学ぶ保育内容「領域言葉」』萌文書林

#### その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

#### 担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	領域のねらい		
担 当 者 名	木本 節子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	1301006	授 業 形 態	講義
学 年	1 年	開 講 期	2025 年度前期
単 位 数	2	履 修	幼稚園教諭必修 保育士必修
ナンバリング	DP2-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>幼児教育は園生活全体を通して総合的に指導することを理解し、特に幼稚園教育要領・保育所保育指針の30年度改訂ポイントである資質・能力の三つの柱—中略—の理念を学び、幼児期と児童期の教育課程・指導方法の違いを理解する。</p> <p>又、「乳児期のねらい及び内容」は発達の特徴を踏まえ5領域ではなく3つの視点WHOの定義を引用すると「身体的・社会的・精神的」から編成されていることを理解する。特に乳児から2歳児までは、心身の発達の基礎が形成される上で極めて重要な時期であることを踏まえて幼稚園教育の基本を学び、五領域のねらいと内容及び環境構成の位置づけを担当教員のオリジナル資料「筑紫の心と保育展開—五領域（心情・意欲・態度）の内容と内容の取り扱いの位置づけ—」を活用し、本学の建学の精神「よいこのころはちくしのころ」と五領域の関連性について解説する。</p> <p>その学びが「幼・保・小の架け橋プログラム」へとつながり、小学校との円滑な接続期にふさわしい活動の在り方「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）や「インクルーシブ保育のあり方」などが「育ちと学びの架け橋」となるような授業を展開していく。幼稚園園長としてこの目的を達成するために、担当者が製作した絵本「学園の一本のすももの木」や「みんなおともだち」を教科書として取り入れ、総合的指導（総合学習）についてより理解を深める。（地域の人材活用としてゲストティーチャーが一部参加予定である）</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<p>（1）領域・ねらい＜担当教員のオリジナル資料を基に解説＞ これからの社会を担う幼児たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。 （幼稚園教育要領前文の趣旨に沿った教育方法）</p> <p>1) 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。 2) これからの社会を担う幼児たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（教育要領及び保育所保育指針の改訂ポイントや主体的、対話的で深い学びの実現）を理解している。 3) 学級・児童及び生徒・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解している。 4) 学習評価の基礎的な考え方を理解している。（小学校と幼稚園の評価方法の違い） ※幼稚園教諭は「育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方、『幼児期終了までに育ってほしい10の姿』が「育ちと学びの架け橋」となることを理解している。」</p> <p>（2）教育の技術 教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。</p> <p>1) 話法・板書など、授業・保育を行う上での基礎的な技術を身に付けている。 2) 基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価基準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。</p> <p>（3）情報機器及び教材の活用 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。</p>		

	<p>1) 幼児たちの興味や関心を高めたり課題を明確につかませたり学習内容を的確にまとめさせたりするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・掲示することができる。</p> <p>※幼稚園教諭は「幼児を理解し興味や関心を高めたり保育をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器をかつようして効果的に教材等を作成・提示することができる。」</p> <p>2) 幼児たちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解している。</p>	
授業計画		準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間
1	<p>「幼児教育」の意義（オリエンテーション）          幼・保・小の架け橋プログラムやインクルーシブの保育のあり方について          [授業のテーマ及び到達目標] (1) 1) 2) 4)</p>	<p>事前：授業態度について自分なりの考えをまとめておくこと。(90分)          事後：指定した自己評価（ふりかえり）用紙に自分の考えを述べ、用語の意味や解釈を加えた自己点検用紙を作成すること。(90分)</p>
2	<p>教育要領の前文の主旨及び要点          [授業のテーマ及び到達目標] (1) 1) 2) 3) 4)</p>	<p>事前：テキスト・資料などの指定範囲を通読し、指定した課題（用語の意味）を調べること。(90分)          事後：自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し、内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。(90分)</p>
3	<p>地域と共に「こいのぼり交流会・春の探索」          (幼・保・小との円滑な接続)</p>	<p>事前：テキスト・資料などの指定範囲を通読し、指定した課題（用語の意味）を調べること。(90分)          事後：自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し、内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。(90分)</p>
4	<p>教育・保育方法の基本（改訂のポイント）②          [授業のテーマ及び到達目標] (1) 1) 2) 3) 4)</p>	<p>事前：テキスト・資料などの指定範囲を通読し、指定した課題（用語の意味）を調べること。(90分)          事後：自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し、内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。(90分)</p>
5	<p>教育要領・保育所保育指針の改訂ポイント          ・資質・能力の三つの柱の理念について          ・乳児期のねらいについて（入園前の子どもも理解）          [授業のテーマ及び到達目標] (1) 1) 2)</p>	<p>事前：テキスト・資料などの指定範囲を通読し、指定した課題（用語の意味）を調べること。(90分)          事後：自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し、内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。(90分)</p>
6	<p>幼児教育における遊びを通じた指導について理解する          [授業のテーマ及び到達目標] (1) 1) 2)</p>	<p>事前：テキスト・資料などの指定範囲を通読し、指定した課題（用語の意味）を調べること。(90分)          事後：自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し、内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。(90分)</p>
7	<p>子どもの活動（遊び）を担当者創作絵本「みんなおともだち」を活用してその内容を理解する。</p>	<p>事前：テキスト・資料などの指定範囲を通読し、指定した課題（用語の意味）を調べること。(90分)          事後：自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し、内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。(90分)</p>
8	<p>担当者の創作絵本「みんなおともだち」を活用し、その内容や「幼児期終了までに育てほしい」10の姿を読み取りアクティブラーニングを実施①          [授業のテーマ及び到達目標] (1) 1) 2) 3) 4)</p>	<p>事前：テキスト・資料などの指定範囲を通読し、指定した課題（用語の意味）を調べること。(90分)          事後：自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し、内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。(90分)</p>
9	<p>上記の活動（アクティブラーニングを導入）②          [授業のテーマ及び到達目標] (1) 1) 2) 3) 4)</p>	<p>事前：テキスト・資料などの指定範囲を通読し、指定した課題（用語の意味）を調べること。(90分)          事後：自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し、内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。(90分)</p>
10	<p>活動を分析し幼児教育における見方・考え方を話し合う－視聴覚教材を活用しながら幼児教育と小</p>	<p>事前：テキスト・資料などの指定範囲を通読し、指定した課題（用語の意味）を調べること。(90分)</p>

	学校教育の違いを理解する [授業のテーマ及び到達目標] (1) 1) 2) 3) 4) (2) 2) (3) 1)	事後：自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し、内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。(90分)
11	支援を要する子ども（インクルーシブの保育）理解とクラス運営について インリアルアプローチ導入（視聴覚教材） [授業のテーマ及び到達目標] (1) 1) 2) 3) 4) (2) 2) (3) 1)	事前：テキスト・資料などの指定範囲を通読し、指定した課題（用語の意味）を調べること。(90分) 事後：自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し、内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。(90分)
12	幼児教育における教育課題について (1) 幼稚園の「教育環境 精神・方針・目標」と教育要領のつながり 本学の建学の精神「よいこのこころはちくしのこころ」① [授業のテーマ及び到達目標] (1) 1) 2) 3) 4)	事前：テキスト・資料などの指定範囲を通読し、指定した課題（用語の意味）を調べること。(90分) 事後：自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し、内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。(90分)
13	幼児教育における教育課題について (2) 教育課程の編成・作成について②（視聴覚教材を活用する） [授業のテーマ及び到達目標] (1) 1) 2) 3) 4) (2) 1) 2) (3) 1)	事前：テキスト・資料などの指定範囲を通読し、指定した課題（用語の意味）を調べること。(90分) 事後：自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し、内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。(90分)
14	幼児教育における教育課程について③ (3) 保育の編成手順（期・幼児の姿・ねらい・内容・活動・歌唱・行事・環境構成） [授業のテーマ及び到達目標] (1) 1) 2) 3) 4) (2) 1) 2) (3) 1)	事前：テキスト・資料などの指定範囲を通読し、指定した課題（用語の意味）を調べること。(90分) 事後：自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し、内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。(90分)
15	まとめ 総合的学習について理解を深め「育ちと学びの架け橋」となることを学ぶ [授業のテーマ及び到達目標] (1) 1) 2) 3) 4) (2) 1) 2) (3) 1)	事前：第1～14回の内容についてノート（自己点検）を活用し、グループディスカッションなどを通して復習する。(90分) 事後：自己点検・レポートなどのフィードバック及びノートを活用し、講義全体を復習する。(90分)

#### 準備学習・事後学習等についての補足説明

1. 授業終了後の「ふりかえり」、「事前の課題（自主研修）」を行い、その内容を自主的に発表することによって、次のステップに繋いでほしい。
2. この授業は、終了後の「ふりかえり」、「事前の課題（自主研修を含む）」を重視し、特にレポート（原本）提出の際は、本人用（コピー）を保管すること（期限を守る）。

#### 成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	レポート	授業への取り組み姿勢	
70%	20%	10%	

#### 使用テキスト

書籍名	著者	出版社
創作絵本『学園の一本のすももの木』		
創作絵本『みんなおともだち』		

#### 参考書又は参考資料等

文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館  
 厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』フレーベル館  
 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館

#### その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕

「幼・保・小の架け橋プログラム」を円滑に実施するため、清水小学校、本城東幼稚園、聖が丘幼稚園、到津保育所との接続を図る。

#### 担当教員の連絡先等

担当教員 E-mail	その他

授 業 科 目 名		社会	
担 当 者 名	筒井 智己	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1301202	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2025年度後期
単 位 数	2	履 修	小学校教諭必修
ナ ン バ リ ン グ	DP2-1-B		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	学習指導要領の変遷と社会科教育のあゆみ、現行の学習指導要領、教育課程の実施・学習評価、教材研究の方法、諸教育と社会科、社会科学習の学習評価と授業評価、授業分析について講義を行う。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	1) 学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 3) 当該教科の学習評価の考え方を理解している。 4) 当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。 5) 発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。		
授 業 計 画		準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間	
1	学習指導要領の変遷と社会科教育のあゆみ①コアカリキュラム	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
2	学習指導要領の変遷と社会科教育のあゆみ②経済復興・高度成長期の社会科	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
3	学習指導要領の変遷と社会科教育のあゆみ③情報化・国際化時代の社会科	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
4	学習指導要領の変遷と社会科教育のあゆみ④平成時代の社会科	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
5	学習指導要領の変遷と社会科教育のあゆみ⑤現行の学習指導要領における社会科	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
6	教材研究①教科書分析	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
7	教材研究②教材分析	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
8	教材研究③地域の教材化	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
9	多様な学習方法	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
10	環境教育と社会科	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
11	国際理解教育と社会科	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
12	消費者教育と社会科	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
13	社会科の学習評価と授業評価	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
14	社会科の授業分析	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	

15	第1～14回のまとめと振り返り	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)
<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>		
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>		
定期試験	課題レポート	
40%	60%	
<b>使用テキスト</b>		
書籍名	著者	出版社
『初等社会科教育』	吉田武男監修、井田仁 康・唐木清志編著	ミネルヴァ書房
<b>参考書又は参考資料等</b>		
1. 文部科学省『学習指導要領<平成29年告示>解説 社会編』日本文教出版。 2. 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領<平成29年告示>』フレーベル館。 3. 小学校社会科教育実践講座刊行会『小学社会科教育実践講座 全19巻』教育出版センター。 4. 佐藤正寿監修、宗實直樹編著『社会科教材の追究』東洋館出版社。 5. 北社研OB会有志「北九州の小学校社会科教育のあゆみ」編集委員会『北九州の小学校社会科教育のあゆみ』北社研OB会有志「北九州の小学校社会科教育のあゆみ」編集委員会。		
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕</b>		
<b>担当教員の連絡先等</b>		
担当教員E-mail	その他	

授 業 科 目 名	音楽		
担 当 者 名	北嶋 季之	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1301206	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2025年度前期
単 位 数	2	履 修	幼稚園教諭必修・小学校教諭必修
ナ ン バ リ ン グ	DP2-1-A		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>「音楽」は、小学校教諭一種免許状を取得するために必ず修得しなければならない基礎科目である。「音楽」の授業は「音楽科指導法Ⅰ」と連動している。「音楽科指導法Ⅰ」の授業の中で、指導案、模擬授業を学ぶ。</p> <p>この授業では、将来小学校教諭として音楽表現活動を行うために基礎的な音楽理論を学ぶ。「A表現」の内容については、(1)歌唱(2)器楽(3)音楽づくりの各分野で「思考力、判断力、表現力等」「知識」「技能」に関する資質・能力を説明し学ぶ。また、ピアノ演奏技術および発声方法を習得し、グループ活動、アクティブラーニングを取入れながら基礎的知識を学ぶ。「B鑑賞」の内容については、「思考力、判断力、表現力等」と「知識」に関する資質・能力を説明し学ぶ。</p> <p>音楽表現活動は、子どもたちと直接的な関わりの中で主体となるため、実習や教育現場で必要な教具・教材等に関する知識も身に付け、基本的な理解を深める。</p>		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	<p>1. 小学校学習指導要領の内容を理解し、子どもの発達に応じた音楽的な表現方法の基礎的理論と教科書の内容の基礎知識を習得する。</p> <p>2. ピアノ演奏技術や声楽(歌唱法)、身体表現方法の音楽基礎的技能・知識またICT活用などを習得し、音楽的見方・考え方や表現力および感性を高めることを目標とする。</p> <p>3. 小学校の現場において教育者としての使命感、責任、愛情を持ち、音楽を通して子どもの能力や発達を支援できることを目標とする。</p>		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	<p>「音楽」の受講目的と心構えおよび授業内容の説明を行う。音楽理論(音符、テンポ、リズム、表情記号等)について楽譜を読譜・運指の準備として解説をする。これは、音楽全体の基本となる。</p> <p>「音楽科指導法Ⅰ」に連動し、実技ピアノと歌唱を実践しながら知識を身につける。小学校学習指導要領について解説する。</p>	<p>〈事前〉音楽初心者については、楽譜の読み方(読譜)から始めるためテキストの最初を予習。経験者については、初心戻りつつ、こどもにどのように教えるかを考える。(60分)</p> <p>〈事後〉講義終了後、各自でまとめ次回の講義までに読譜がスムーズにでき、楽譜を理解すること。(120分)</p>	
2	<p>楽譜の説明。リズムついて解説し、日本や諸外国の音楽打楽器・伴奏との関係また、音楽史の流れを解説する。</p>	<p>〈事前〉楽器について知識を増やすこと。打楽器、鍵盤楽器など音楽の歴史について簡単でいいので調べてくこと。(60分)</p> <p>〈事後〉こどもがどのように楽器に触れ、親しみを感じるかをまとめる。(120分)</p>	
3	<p>楽譜の説明。歌唱による表現方法と伴奏の実践①を解説する。</p>	<p>〈事前〉引続き読譜の練習。こどもにどのように歌わせたらよいかを考え伴奏の基礎を考える。(60分)</p> <p>〈事後〉基礎的な発声の仕方をもう一度見直す。実際に各自で声を出し体験する。(120分)</p>	

4	指揮法①について解説。歌唱の伴奏実践②と声の種類・変声期理解を解説する。	<p>〈事前〉指揮の基本的な振り方（拍数）を考えておく。（60分）</p> <p>〈事後〉指揮をもう一度実際に振り（4/4、3/4、2/4、6/8）を理解すること。発声の仕方を考える（120分）</p>
5	指揮法②について解説。合唱指導法（輪唱、斉唱など）、編成と実践解説する。鑑賞曲第1学年を解説する。	<p>〈事前〉指揮の基本的な振り方（拍数）を考えておく。（60分）</p> <p>〈事後〉指揮をもう一度実際に振り（4/4、3/4、2/4、6/8）を理解すること（120分）</p>
6	器楽の指導法を解説する。リコーダー、鍵盤ハーモニカの実践を解説する。鑑賞曲第2学年を解説する。	<p>〈事前〉鍵盤の運指（指使い）の見直し。ソプラノリコーダーの吹き方の確認。（60分）</p> <p>〈事後〉基礎的な知識をしっかりとめ、子どもにどのように指導するかをまとめる。音楽鑑賞第1・2学年をまとめる。（120分）</p>
7	楽器の演奏と合奏の指導法を解説する。	<p>〈事前〉前回に楽器で曲を演奏することにより、次はいろんな楽器で合奏を行うには、何が必要か考える。（60分）</p> <p>〈事後〉実際に楽器を演奏し、体験することによって子どもたちの音楽に興味関心が持てるように工夫することを考える。（120分）</p>
8	小学校学習指導要領（音楽）「A表現」（1）歌唱のうち、第1学年、第2学年について解説する。電子楽器活用とICT等を活用し音楽ソフトウェアを使用して演奏表現活動のサポートを行うための解説をする。	<p>〈事前〉ICT等を活用するため各自で（無料）音楽ソフトウェアを使用してみて検証しておく。（60分）</p> <p>〈事後〉電子楽器、録音などの技術力も必要となるので、ITも含め、検証しながら習得する。（120分）</p>
9	小学校学習指導要領（音楽）「A表現」（1）歌唱のうち、第3学年について解説する。合奏の練習、グループディスカッション・楽器について解説する。	<p>〈事前〉小学校第3学年、幼稚園課程において文部科学省指定の歌唱曲を一度各自で読譜しておく。また、合奏（ボディパーカッション）については各自で練習しておくこと。（60分）</p> <p>〈事後〉実技指導が必要な科目のため、歌唱、楽器（ボディパーカッション）を各自で復習すること。（120分）</p>
10	小学校学習指導要領（音楽）「A表現」（1）歌唱のうち、第4学年について解説する。合奏発表（グループディスカッション・楽器）・鑑賞曲第3学年について解説する。	<p>〈事前〉小学校第4学年、幼稚園課程において文部科学省指定の歌唱曲を一度各自で読譜しておく。また、合奏（ボディパーカッション）を発表するため、各自で練習しておくこと。（60分）</p> <p>〈事後〉実技指導が必要な科目のため、歌唱、楽器（ボディパーカッション）を各自で復習すること。第3学年鑑賞曲の解説をまとめること。（120分）</p>
11	音楽理論（和音）①について解説する。小学校学習指導要領（音楽）「A表現」（1）歌唱のうち、第5学年について解説する。鑑賞曲第4学年について解説する。	<p>〈事前〉和音（コード）については、初回の方で音階を学んできたので、音階、音名を再確認すること。（60分）</p> <p>〈事後〉基本の和音（コード）I・IV・V・V<sub>7</sub>【C・F・G・G<sub>7</sub>】を必ず暗譜し、和音の運指も覚えること。第4学年鑑賞曲の解説をまとめること。（120分）</p>
12	音楽理論（和音）②について解説する。小学校学習指導要領（音楽）「A表現」（1）歌唱のうち、第6学年について解説する。鑑賞曲第5学年について解説する	<p>〈事前〉和音（コード）の再確認。（60分）</p> <p>〈事後〉小学校唱歌を再度確認。また発声を再度確認すること。鑑賞曲第5学年の解説をまとめること。（120分）</p>

13	音楽理論（和音づけ）・鑑賞曲第6学年について解説する。また、合奏演奏が困難な箇所や留意点を解説する。	〈事前〉和音（コード）についても一度鍵盤で確認しておくこと。（60分） 〈事後〉和音づけを実際に各自で1曲付けてみる。第5・6学年の音楽鑑賞についてまとめる。（120分）
14	音楽理論（移調）について解説をする。	〈事前〉調についても一度確認しておくこと。（60分） 〈事後〉移調については、こどもの声に合わせて調を移調することがあるため、実際に楽譜が書けるようにする。（120分）
15	和音（コード）・リズム・調号（調）・移調・楽語のまとめについて解説する。	〈事前〉14回までの講義の中でどのように音楽の基礎知識をもう一度再確認する。特に和音（コード）は、重要である（60分） 〈事後〉15回の講義をまとめる。（120分）

### 準備学習・事後学習等についての補足説明

歌、楽器の伴奏をどのように技術力を向上するために日々の学習が必要となるため声を出したり、楽器に触れ、各自で授業の〈事前・事後〉を行う。

### 成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験 前期・筆記試験	レポート・提出物	小テスト	
60%	15%	25%	

### 使用テキスト

書籍名	著者	出版社
『保育士、幼稚園・小学校教諭を目指す人のために この一冊でわかる楽典と音楽実技』	深見友紀子 小林田鶴子	音楽之友社、2023年3月。
『保育士・幼稚園教諭 小学校教諭養成のためのピアノテキスト 楽典・身体表現教材付』	全国大学音楽教育学会九州地区学会 編	カワイ出版、2014年4月。

### 参考書又は参考資料等

小学校教員養成課程用 改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 別冊：「小学校学習指導要領〈全文/総則/音楽〉」「中学校学習指導要領〈音楽〉」 初等科音楽教育研究会 編 音楽之友社

### その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

受講時は、プリント配布やテキスト内の課題を行うため、プリント記入、PC、タブレットの楽譜(無料ソフト)などを使用し各自でまとめ学習すること。また、〈事前・事後〉の学習状況は、成績評価に関わるため、真剣に取り組んでください。各回授業はじめに簡単にフィードバックしながら授業を進めます。

### 担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	図画工作		
担 当 者 名	都 留 守	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1301207	授 業 形 態	講義
学 年	1 年	開 講 期	2025 年度前期
単 位 数	2	履 修	小学校教諭必修
ナンバリング	DP2-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの豊かな情操を培う図画工作科教育の基盤となる造形の理論を理解するための研究をする。</li> <li>・過去の芸術家についての研究を通して、図画工作科学習の授業について理解を深める研究する。</li> </ul>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの豊かな情操を培う図画工作科教育の基盤となる造形の理論を理解する。</li> <li>・過去の芸術家について研究することで、図画工作科学習の授業について理解を深め、教師の資質を高める。</li> </ul>		
授業計画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション 「小学校学習指導要領 図画工作編」について	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
2	「小学校学習指導要領 図画工作編」を研究する 第1章総説及び第2章図画工作の目標及び内容について	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
3	第1学年及び第2学年の目標と内容について	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
4	第1学年及び第2学年の実践事例を研究する(1) 元永定正<作品Q-113>を鑑賞して、題材「見つけて、感じて、伝えよう」の実践を学ぶ	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
5	第1学年及び第2学年の実践事例を研究する(2) 古賀春江<無題>を鑑賞して、題材「絵のお話を想像してみよう」の実践を学ぶ	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
6	第1学年及び第2学年の実践事例を研究する(3) 坂井央也<ぐるぐるぐる>を鑑賞して、題材「ぐるぐるぐるとあそぼう」の実践を学ぶ	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
7	第3学年及び第4学年の目標と内容について	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
8	第3学年及び第4学年の実践事例を研究する(1) 田中敦子<作品>を鑑賞して、題材「体でみる 体で表す 表し方の楽しさ」の実践を学ぶ	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
9	第3学年及び第4学年の実践事例を研究する(2) 海老原喜之助<靴屋>を鑑賞して、題材「人と人との関わりを考え、2人の関係を表そう」の実践を学ぶ	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
10	第3学年及び第4学年の実践事例を研究する(3) 白髪一雄<と利天>を鑑賞して、題材「音や動きを絵に表そう」の実践を学ぶ	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
11	第5学年及び第6学年の目標と内容について	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
12	第5学年及び第6学年の実践事例を研究する(1) 若林奮<作品No.2>を鑑賞して、「見えない世界を立体で表そう」の実践を学ぶ	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
13	第5学年及び第6学年の実践事例を研究する(2) 糸園和三郎<老婦と子ども>を鑑賞して、題材「時間と共に変化する自分を影絵で表そう」の実践を学ぶ	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	

14	第5学年及び第6学年の実践事例を研究する(3) アンリ・マティス<ジャズ>を鑑賞して、題材「はさみで切った紙の色と形を組み合わせる」の実践を学ぶ	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
15	「図画工作」の研究のまとめをし、レポートを提出する	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>			
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>			
指導案提出	授業の振り返り・レポート	授業の予習・復習内容	
40%	40%	20%	
<b>使用テキスト</b>			
書籍名	著者	出版社	
・『小学校学習指導要領解説 図画工作編(平成29年告示)』 ・『図画工作1・2年(上下)』、『同3・4年(上下)』、『同5・6年(上下)』 ・鑑賞学習資料「北九州市立美術館を活用した学習プログラム」	・文部科学省 ・検定教科書	・日本文教出版 ・開隆堂出版	
平成21-23年度科学研究費補助金基盤研究(B)課題番号21330204 研究課題「対話による意味生成的な美術鑑賞教育の地域カリキュラム開発」 報告書「北九州市美術鑑賞教育カリキュラム」			
<b>参考書又は参考資料等</b>			
1. 文部科学省『幼稚園教育要領<平成29年告示>』フレーベル館 2. 厚生労働省『保育所保育指針<平成29年告示>』フレーベル館 3. 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領<平成29年告示>』フレーベル館			
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕</b>			
<b>担当教員の連絡先等</b>			
担当教員 E-mail	その他		

授 業 科 目 名		音楽科指導法Ⅰ	
担 当 者 名		木村 次宏	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		1301306	授 業 形 態
学 年		1年	開 講 期
単 位 数		1	履 修
ナ ン バ リ ン グ		DP2-1-B	
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕		<p>「音楽科指導法Ⅰ」は小学校教諭一種免許状を取得するための必修科目であり、＜教科及び教職に関する科目＞である。「音楽科指導法Ⅰ」は「音楽」と連動して授業が行われる。</p> <p>この授業では、将来、小学校教員として音楽授業を行うために求められる実践的指導力を育成する。そこでは、教材研究に取り組むために必要な、学習指導要領に関する理解、基礎的な音楽知識や演奏技能の習得を通して、実習や教育現場での実践に備えて、学習指導案の作成及び模擬授業に取り組み、効果的・効率的な指導法の基礎・基本を身に付ける。</p>	
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕		<p>1. 小学校音楽科学習指導要領の目標、「A 表現」・「B 鑑賞」・〔共通事項〕の各内容、指導計画の作成と内容の取扱い等について、その概要を理解している。</p> <p>2. 歌教材研究の方法や授業づくりの基礎・基本について理解し、学習指導案の作成、模擬授業の実践に取り組むことができる。</p> <p>3. 音楽科指導の場面で求められる基礎的な音楽理論(楽典)や演奏技能を習得するとともに、それを教材研究の場面に活用することができる。。</p> <p>4. 情報機器やパソコン、ICTを取り入れた活動を行うことができる。</p>	
授 業 計 画		準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間	
1	<p>小学校教育における今日的課題（新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実等）や音楽科教育の存在意義、授業の現状等に関する講話及び資料提示。小学校教員として音楽授業を行うためにどのような実践的指導力が求められるのかについての認識を深め、自ら課題意識をもつ。</p>	<p>事前：テキストの範囲を読んでおく。（15分）</p> <p>事後：講義の内容をテキストで復習する。（30分）</p>	
2	<p>小学校音楽科学習指導要領の全体構造についての説明。教科の目標、内容、指導計画の作成と内容の取扱い等の概要を理解する。また前時で検討した音楽授業において求められる実践的指導力についてグループで意見交換をし、基礎的な音楽理論（楽典）や演奏技能習得の必要性等について自覚する。</p>	<p>事前：テキストの範囲を読んでおく。（15分）</p> <p>事後：講義の内容をテキストで復習する。（30分）</p>	
3	<p>第1学年及び第2学年の教科書教材（歌唱共通教材）の説明及び歌唱指導。指導上の留意点等について検討する。また教材研究を行うための基礎的な音楽理論（楽典）や演奏技能を習得する。（理論課題1：楽譜と音名と鍵盤の関係）</p>	<p>事前：テキストの範囲を読んでおく。（15分）</p> <p>事後：講義の内容をテキストで復習する。（30分）</p>	

4	第3学年及び第4学年の教科書教材（歌唱共通教材）の説明及び歌唱指導。指導上の留意点等について検討する。また教材研究を行うための基礎的な音楽理論（楽典）や演奏技能を習得する。（理論課題2：音符の種類と長さの関係、拍子の種類）	事前：テキストの範囲を読んでおく。（15分） 事後：講義の内容をテキストで復習する。（30分）
5	第5学年の教科書教材（歌唱共通教材）の説明及び歌唱指導。指導上の留意点等について検討する。また教材研究を行うための基礎的な音楽理論（楽典）や演奏技能を習得する。（理論課題3：音程とハ長調の音階と主要三和音及び属七の和音）	事前：テキストの範囲を読んでおく。（15分） 事後：講義の内容をテキストで復習する。（30分）
6	第6学年の教科書教材（歌唱共通教材）の説明及び歌唱指導。指導上の留意点等について検討する。また教材研究を行うための基礎的な音楽理論（楽典）や演奏技能を習得する。（理論課題4：ヘ長調及びト長調の音階と主要三和音及び属七の和音）	事前：テキストの範囲を読んでおく。（15分） 事後：講義の内容をテキストで復習する。（30分）
7	歌唱指導の授業実践計画を立てるにあたって、音楽科学習指導要領の「指導計画の作成と内容の取扱い」について理解する。また教材研究を行うための基礎的な音楽理論（楽典）や演奏技能を習得する。（理論課題5：イ短調の音階と主要三和音及び属七の和音）	事前：テキストの範囲を読んでおく。（15分） 事後：講義の内容をテキストで復習する。（30分）
8	歌唱指導のためのピアノ伴奏の練習課題に取り組む。また教材研究を行うための基礎的な音楽理論（楽典）や演奏技能を習得する。（理論課題6：和音記号とコードネーム）	事前：テキストの範囲を読んでおく。（15分） 事後：講義の内容をテキストで復習する。（30分）
9	学習指導案を作成するための書式について理解するとともに、具体的な授業を想定した授業計画と指導案作りに取り組む。	事前：テキストの範囲を読んでおく。（15分） 事後：講義の内容をテキストで復習する。（30分）
10	グループ作成した指導案に基づいて模擬授業（低学年）を実施し、その振り返りを通して、授業改善の視点及び自分自身の課題について検討する。	事前：テキストの範囲を読んでおく。（15分） 事後：講義の内容をテキストで復習する。（30分）
11	情報通信技術を活用した音楽授業実践例について調査し、その活用の有用性と課題について検討する。また音楽授業において使用可能なアプリや情報機器等について、その操作や活用方法を知る。	事前：テキストの範囲を読んでおく。（15分） 事後：講義の内容をテキストで復習する。（30分）
12	グループ作成した指導案に基づいて模擬授業（中学年）を実施し、その振り返りを通して、授業改善の視点及び自分自身の課題について検討する。また学習評価の役割（指導と評価の一体化）について理解する。	事前：テキストの範囲を読んでおく。（15分） 事後：講義の内容をテキストで復習する。（30分）
13	グループ作成した指導案に基づいて模擬授業（高学年）を実施し、その振り返りを通して、授業改善の視点及び自分自身の課題について検討する。また観点別学習状況の評価について理解する。	事前：テキストの範囲を読んでおく。（15分） 事後：講義の内容をテキストで復習する。（30分）

14	弾き歌いの課題曲を選曲して、実際の授業場面を想定しながら練習を行い、演奏が困難な箇所や留意点を確認する。	事前：テキストの範囲を読んでおく。(15分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(30分)
15	弾き歌いの課題曲を演奏する。最後に、授業の総括を行う。	事前：テキストの範囲を読んでおく。(15分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(30分)
<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>		
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>		
定期試験	実技課題・レポート課題等	授業への参加度(主体的に学習に取り組む姿勢)
50%	30%	20%
<b>使用テキスト</b>		
書籍名	著者	出版社
『小学校教員養成課程用 改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示 「小学校学習指導要領」準拠』 (別冊:『小学校学習指導要領〈前文/総則/音楽〉』『中学校学習指導要領〈音楽〉』)	初等科音楽教育研究会編	音楽之友社
『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 音楽編』	文部科学省	東洋館出版社
<b>参考書又は参考資料等</b>		
1. 検定教科書『小学音楽 音楽のおくりもの 1～6』教育出版。 2. 検定教科書『小学生の音楽 1～6』教育芸術社。 3. 文部科学省『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』東洋館出版、2020年6月。 4. 富澤 裕『音楽科必携! 歌唱共通教材 指導のヒント』音楽之友社、2013年4月。		
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕</b>		
<b>担当教員の連絡先等</b>		
担当教員E-mail	その他	

授 業 科 目 名	図画工作科指導法 I		
担 当 者 名	都留 守、北原 郁美	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1301312	授 業 形 態	演習
学 年	1 年	開 講 期	2025 年度後期
単 位 数	1	履 修	幼稚園教諭必修 小学校教諭必修 保育士必修
ナンバリング	DP2-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	自らが表現及び鑑賞の楽しさや面白さを体得しながら、児童の五感を生かした図画工作科教育の目標や内容について研究する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校低学年・中学年・高学年の表現及び鑑賞の活動を通して、子どもの感性を高める図画工作科学習の指導の要点を理解して、教師としての造形的な知識や技能を身に付ける。</li> <li>・小学校低学年・中学年・高学年の題材での教材研究を通して表現及び鑑賞の楽しさや面白さを味わい、個性的な表現や鑑賞への指導力を磨く。</li> </ul>		
授業計画		準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間	
1	オリエンテーション「図画工作 I」について	事前：テキストの範囲を読んでおく。(15 分) 事後：講義の内容を復習する。(30 分)	
2	【低学年】 絵画題材「ながいかみから」オイルパステルによる素描、絵画題材「クレヨンやパスとなかよし」オイルパステルを使ったモダンテクニック（ぼかし）、絵画題材「さわってかくのきもちいい」水彩絵の具によるモダンテクニック（フィンガーペインティング）、絵画題材「せんのかんじいいかんじ」水彩絵の具による表現、絵画題材「ふしぎなものあらわれた」水彩絵の具によるモダンテクニック（バチック）、絵画題材「えのぐをたらしめたかたちから」水彩絵の具によるモダンテクニック（フロッタージュ）の中から 1 題材を選択し、教材研究する。	事前：テキストの範囲を読んでおく。(15 分) 事後：講義の内容を復習する。(30 分)	
3	選択した【低学年】 絵画題材の指導案を作成し、グループで内容を検討する。	事前：テキストの範囲を読んでおく。(15 分) 事後：講義の内容を復習する。(30 分)	
4	グループで作成した指導案をもとに、模擬授業を実施し、授業検討会をする。	事前：テキストの範囲を読んでおく。(15 分) 事後：講義の内容を復習する。(30 分)	
5	【低学年】 絵画題材の取組について、成果と課題を明らかにする。	事前：テキストの範囲を読んでおく。(15 分) 事後：講義の内容を復習する。(30 分)	
6	【中学年】 工作題材「光サンドイッチ」光と影、色と形の組み合わせをモダンテクニックを生かしてつくる。工作題材「ゆめいろらんぷ」色セロファン、和紙等でランプシェードをつくり、光の世界をモダンテクニックを生かしてデザインする。木工作題材「トントンくぎ打ち、コンコンビー玉」「トントンつないで」釘の打ち方に慣れ、ビー玉の転がるコースを作ったり、角材をつないだりし、モダンテクニックを生かした動くものをつくる。木工作題材「のこぎりひいて、ザクザクザク」「つくって、つかって、たのしんで」角材や板を鋸で切って、モダンテクニックを生かして木ぎれを組み合わせでつくる。の中から 1 題材を選択し、教材研究をする。	事前：テキストの範囲を読んでおく。(15 分) 事後：講義の内容を復習する。(30 分)	

7	選択した【中学年】工作題材の指導案を作成し、グループで内容を検討する。	事前：テキストの範囲を読んでおく。(15分) 事後：講義の内容を復習する。(30分)
8	グループで作成した指導案をもとに、模擬授業を実施し、授業検討会をする。	事前：テキストの範囲を読んでおく。(15分) 事後：講義の内容を復習する。(30分)
9	【中学年】工作題材の取組について、成果と課題を明らかにする。	事前：テキストの範囲を読んでおく。(15分) 事後：講義の内容を復習する。(30分)
10	【高学年】ICT活用題材「CGを使っておもしろ写真を作ろう」の教材研究をする。	事前：テキストの範囲を読んでおく。(15分) 事後：講義の内容を復習する。(30分)
11	児童用コンピュータを使い、デジカメで撮った写真を加工する方法を学ぶ。また、作品を制作する過程で肖像権等、情報モラルについて指導内容を学び、指導観を作成する。	事前：テキストの範囲を読んでおく。(15分) 事後：講義の内容を復習する。(30分)
12	デジタルカメラの操作方法を活用して、作品づくりについて知り、構想を立て、デジタルカメラで、作品に必要なものを撮り、素材を集める。また、組み合わせたい画像などWEB上で集めて、具体的な本時の指導案を作成し、グループで内容を検討する。	事前：テキストの範囲を読んでおく。(15分) 事後：講義の内容を復習する。(30分)
13	【高学年】ICT活用題材の模擬授業を実施し、授業検討会をする。	事前：テキストの範囲を読んでおく。(15分) 事後：講義の内容を復習する。(30分)
14	【高学年】ICT活用題材の取組について、成果と課題を明らかにする。	事前：テキストの範囲を読んでおく。(15分) 事後：講義の内容を復習する。(30分)
15	「こどもの造形Ⅰ」についてまとめ、レポートを提出する。「こどもの造形Ⅱ・Ⅲ」について知らせる。	事前：テキストの範囲を読んでおく。(15分) 事後：講義の内容を復習する。(30分)

#### 準備学習・事後学習等についての補足説明

#### 成績評価の方法〔評価項目と割合〕

作品提出	授業の振り返り・レポート	授業の予習・復習内容	
40%	40%	20%	

#### 使用テキスト

書籍名	著者	出版社
『小学校学習指導要領解説 図画工作編（平成29年告示）』	文部科学省	日本文教出版
『図画工作1・2年（上下）』、『同3・4年（上下）』、『同5・6年（上下）』	検定教科書	開隆堂出版

#### 参考書又は参考資料等

- 開隆堂 デジタル教科書図画工作  
指導者用 ずがこうさく1・2上下DVD-ROM  
指導者用 図画工作3・4上下DVD-ROM  
指導者用 図画工作5・6上下DVD-ROM
- 開隆堂 小学校図画工作—作品集／題材集（低学年、中学年、高学年）
- 開隆堂 用具・道具の使い方と工夫（上巻、中巻、下巻）
- 開隆堂 学習指導書+アートカード追加セット  
ずがこうさく 1・2 上 わくわくするね ずがこうさく 1・2 下 みつけたよ  
図画工作 3・4 上 できたらいいな 図画工作 3・4 下 力を合わせて  
図画工作 5・6 上 心をひらいて 図画工作 5・6 下 つながる思い
- 開隆堂 よくわかる図画工作科 ICT・プログラミング活用事例集

#### その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕

担当教員の連絡先等

担当教員 E-mail

その他

--	--

授 業 科 目 名	教育原理		
担 当 者 名	本多 みどり	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1301601	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2025年度前期
単 位 数	2	履 修	必修・幼稚園教諭必修・小学校教諭必修・保育士必修
ナ ン バ リ ン グ	DP1-1-A		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>現在、子どもたちに「生きる力」をはぐくむ教師が求められている。そのため、実践力の背景として、教師には高い専門的力量とそれを支える豊かな人間性、および、確固とした教育理念が必要となる。そこで、教育原理の講義においては、教育の意義や目的及び児童福祉等のかかわり、教育思想と歴史的変遷、基礎理論、教育制度、生涯学習の現状と課題など、概要を網羅的に学ぶ。それにより教育について幅広い視野を養い、基礎的な知識を身に付け、考える力を育てることを目指す。その際、できるだけ多くの具体的事例や現状を紹介して、学生が主体的に学べるように工夫し、学生のレポート作成に生かせるようにする。</p>		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教育の意義や目的、教育と児童福祉について理解できる。</li> <li>2) 欧米の教育思想が、日本の教育の様々な分野に大きな影響を及ぼしていることを理解できる。</li> <li>3) 教育が制度として、どのように運営されているかについて理解できる。</li> <li>4) 教育内容、方法、計画と評価のあり方について、歴史的な経緯を踏まえながら現代的な課題を理解できる。</li> <li>5) 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解できる。</li> </ol>		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	<p>教育の意義</p> <p>：教育の人間形成に及ぼす影響力を具体的事例から学び、教育の意義と目的について考える</p>	<p>事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分)</p> <p>事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)</p>	
2	<p>教育の目的</p> <p>：まず日本国憲法、教育基本法の教育理念・目的・目標などを学び、つづいて現代日本の教育をめぐる状況について学ぶことにより「生きる力」とは何かを考える</p>	<p>事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分)</p> <p>事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)</p>	
3	<p>子どもの成長と教育の特性</p> <p>：モンテッソーリ教育法を取り上げ、子どもの敏感期について学び、意図的教育による働きかけと発達の関係性を考える</p>	<p>事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分)</p> <p>事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)</p>	
4	<p>教育と子ども家庭福祉の関連性</p> <p>：児童福祉法の理念、子ども家庭福祉の考え方などを学び、現代日本の子どもの貧困をどのように解決すべきかを考える</p>	<p>事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分)</p> <p>事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)</p>	
5	<p>人間形成と家庭・地域福祉</p> <p>：家庭教育や地域の教育力の低下が指摘されている現状を、家庭と社会をめぐる大まかな歴史的変遷を学びつつ捉え、回復を目指す取り組みについて考える</p>	<p>事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分)</p> <p>事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)</p>	

6	諸外国の教育思想 ：近代教育に大きな影響を与えたヨーロッパの教育思想家について学ぶ（テキスト2、参考資料4参照）	事前：テキストの範囲を読んでおく。（90分） 事後：講義の内容をテキストで復習する。（90分）
7	諸外国の教育の歴史 ：諸外国の歴史と公教育の進展、それとともに現れた優れた教育実践について学ぶ（テキスト2、参考資料4参照）	事前：テキストの範囲を読んでおく。（90分） 事後：講義の内容をテキストで復習する。（90分）
8	日本の教育思想・歴史 ：江戸時代から現在に至るまでの教育思想と歴史の概要を学ぶ（テキスト2、参考資料4参照）	事前：テキストの範囲を読んでおく。（90分） 事後：講義の内容をテキストで復習する。（90分）
9	子ども観と教育観 ：日本と西洋における子ども観と教育観について、その歴史の変遷を学ぶ（テキスト2、参考資料4参照）	事前：テキストの範囲を読んでおく。（90分） 事後：講義の内容をテキストで復習する。（90分）
10	教育制度の進展 ：教育制度化の歴史と学校の特徴を学ぶ（テキスト2、参考資料4参照）	事前：テキストの範囲を読んでおく。（90分） 事後：講義の内容をテキストで復習する。（90分）
11	日本の教育の法律と行政 ：現行教育法の規定内容について学び、メディアと知のあり方の大転換期である現代社会の現状をあわせ学ぶことにより、わが国の今後の教育のあるべき姿を考える	事前：テキストの範囲を読んでおく。（90分） 事後：講義の内容をテキストで復習する。（90分）
12	諸外国の教育制度 ：諸外国の教育制度について、日本の教育制度と比較しながら学ぶ（テキスト2、参考資料4参照）	事前：テキストの範囲を読んでおく。（90分） 事後：講義の内容をテキストで復習する。（90分）
13	教育実践の基礎 ：日本の教育の内容と方法の特徴、評価について学び、教育改革の事例の成果と課題を分析する	事前：テキストの範囲を読んでおく。（90分） 事後：講義の内容をテキストで復習する。（90分）
14	さまざまな教育実践 ：レッジョ・エミリア教育法など海外の教育実践の特徴や実践例（参考資料4参照）	事前：テキストの範囲を読んでおく。（90分） 事後：講義の内容をテキストで復習する。（90分）
15	生涯学習の理念と現状および課題 ：生涯学習理念の登場と定着の歴史について学ぶ。教育原理のまとめ（学生はレポート提出）	事前：テキストの範囲を読んでおく。（90分） 事後：講義の内容をテキストで復習する。（90分）

#### 準備学習・事後学習等についての補足説明

#### 成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	レポート	授業への取り組み	
70%	10%	20%	

#### 使用テキスト

書籍名	著者	出版社
『小学校学習指導要領解説（平成29年告示） 総則編 』	文部科学省編	東洋館出版

『ダイバーシティ時代の教育の原理—多様性と新たなるつながりの地平へ—』（第二版）	藤田由美子他	学文社
<b>参考書又は参考資料等</b>		
1. 文部科学省編『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2. 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館 3. 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 4. 新基本保育シリーズ2 監修 公益財団法人児童育成協会 編集 矢藤誠慈郎 他編集 ※その他、授業の中で、参考書や参考文献を紹介する。		
<b>その他</b> 〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕		
<b>担当教員の連絡先等</b>		
担当教員E-mail	その他	

授 業 科 目 名		教職概論	
担 当 者 名		上森 哲生	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		1301602	授 業 形 態
学 年		1年	講 義
単 位 数		2	開 講 期
ナ ン バ リ ン グ		DP1-1-A	履 修
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕		<p>授業の概要</p> <p>教職の意義、教員の役割、資質能力、職務内容等について、理論面、制度面、実態面などから講義をしてゆく。</p> <p>ゲストティーチャーも含め、地域の人材や経験者等からの講義やアクティブな学びも取り入れる。</p> <p>世の中の変化に応じて、教育界も対応するうえでの変化も大きくスピードが速いので、AIやICTも含めた研修参加の意義を取り上げ、資質の向上を図るように指導する。</p>	
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕		<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>○ 教職の意義、教員の役割、資質能力、職務内容等を身に付け、教職への意欲を高め適性を判断して、教職のあり方を理解する。</p> <p>1 教職の意義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公教育の担い手とその担い手である教員の存在意義を理解する。</li> <li>・教職の職業的特徴を理解する。</li> </ul> <p>2 教員の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員に求められる役割と基礎的な資質能力を理解する。</li> </ul> <p>3 教員の職務内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児、児童及び生徒への指導とそれ以外の校務を含めた職務全体像を理解する。</li> <li>・教員研修に積極的に参加することで、専門職として、適切に職務を遂行するために生涯学ぶ必要性を理解する。</li> <li>・教員に課せられる服務上、身分上の義務及び身分保障を理解する。</li> </ul> <p>4 チーム学校運営への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校内外の専門家とも連携し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。</li> </ul>	
授 業 計 画		準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間	
1	第1回：オリエンテーション 教職の意義について	<p>テキストの初めの部分を読んでおくこと</p> <p>教職を目指した動機について自分なりの考えを準備しておくこと</p> <p>今、文部科学省で検討されている、教科書のデジタル化と従来通りの紙使用の論争についてより良い方向にするにはどうするか、自分なりに準備しておくこと</p> <p>教育の目的と意義（教育基本法・学校教育法）について目を通しておくこと</p>	
2	第2回：教員の資格と役割そして責任について	<p>教員・教師・教職員それぞれの呼称の意味等の違いを調べておくこと</p> <p>テキストの該当箇所の読みをしておくこと</p> <p>現代の社会での教育や教員の役割について自分なりに考えをまとめておくこと</p>	

3	第3回：教員育成のシステム 明治期から平成期までを中心に	江戸期の教育者養成の態勢について調べておくこと 明治以降令和の時代までの教育者養成の特徴的な違いについて自分なりの見解を準備しておくこと 教育基本法や学校教育法、学習指導要領、教育公務員特例法などについて目を通しておくこと
4	第4回：小学校学習指導要領解説 総則編について	「小学校学習指導要領解説の総則編」に目を通しておくこと 指導方法の在り方について準備をすること
5	第5回：教員（保育者を含む）の理想像について	最近のテレビドラマ「御上」の教員像の特色に関して、雑談での意見交換をしておくこと 教員の理想像とはどういうものと説明するか、自分なりの考えを準備しておくこと 教員の権利と義務について考えておくこと
6	第6回：教員の専門性について アセスメントについて	教員の専門性とは何を言うのか考えること アセスメントおよびアタッチメントについて調べたことをA4一枚にまとめておくこと キャリア形成とは何か考えておくこと 教員の研修の種類や重要性について目を通しておくこと
7	第7回：教員及び保育者の職務について	教員と保育者の職務内容の調べとまとめを行うこと
8	第8回：カリキュラムマネジメント及び生徒指導に取り組む教員について	カリキュラムマネジメントとは何か、調べておくこと 生徒指導が教員の資質能力の礎となるがなぜなのか考えておくこと 学校の役割とは何か、説明できるように準備すること いじめ・不登校・発達障害に対する予備的知識を入れておくこと 教育相談について準備をしておくこと
9	第9回：学級を育てる教員について 幼小接続とアセスメント	学級経営の視点から目指す教員像を考えておくこと アセスメントの活用について意見を述べられるように準備しておくこと
10	第10回：授業を創造する教員について	授業をどう行うのか、その方法等について調べておくこと 各教科の「見方・考え方」に関してまとめておくこと 自分で考え、判断し、行動する子どもの育成と対話を通じての組織づくりをどうするか準備すること
11	第11回：障害のある子ども等を支援する教員及び保育者について	特別支援教育とは、その対象や目的はどこにあるのか、説明できるように準備すること インクルーシブ教育とは、どういうことか調べること 人権についても説明できるように準備すること
12	第12回：教員資格と教員の採用について	教員の資格について調べておくこと 教員採用試験の在り方等について調べておくこと
13	第13回：教員研修と評価について	教員にとっていろいろな研修の重要性はなぜなのか、意見を言えるように準備しておくこと
14	第14回：教員と学校経営について	学級経営と学校経営について調べておくこと 本学の教育理念「勇親愛知」を具現化して、どのような学校作りを目指すかよいか準備すること 各人における「学校の役割の明確化」をしておくこと

15	第15回：教職をめぐる新たな諸課題について	教職や教員に関する課題が山積している。現在の課題に関して複数個書き出しておくこと 教育格差と貧困問題、AI教育における学び・国際理解、グローバル化対応などについて予備知識を入れておくこと
----	-----------------------	--

#### 準備学習・事後学習等についての補足説明

該当箇所のテキスト内容に目を通し、準備しておくこと  
各テーマに関する事前の準備等について確実にを行うこと  
ほとんどの授業時間後、短めだがレポートの提出を行うことを予定しているため、そのつもりで

#### 成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	課題	態度	
60%	20%	20%	

#### 使用テキスト

書籍名	著者	出版社
「教職論」	吉田武男監修	ミネルヴァ書房

#### 参考書又は参考資料等

文部科学省「小学校学習指導要領解説 総則編」東洋館出版社 平成30年  
「令和の日本型学校教育を担う教師の養成・採用・研修等のあり方について」中央教育審議会答申 令和4年12月19日  
「令和の日本型教育」の構築を目指して 全ての子どもたちの可能性を引き出す『個別最適な学びと協働的な学びの実現』中央教育審議会答申 令和3年1月26日  
文部科学省「生徒指導提要」東洋館出版社 令和4年

#### その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

受講時は能動的に参加してほしいので、事前の指示や予習を行うこと  
課題（レポート等を含む）の提出は確実にを行うこと  
授業のフィードバックは一コマごとにA4一枚に図示しつつまとめておくこと

#### 担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	学校運営と制度		
担 当 者 名	樋口 綾子、花島 秀樹	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1301603	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2025年度後期
単 位 数	2	履 修	卒業必修・幼稚園教諭必修・小学校教諭必修・保育士必修
ナ ン バ リ ン グ	DP1-1-B		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	この授業では、学校組織マネジメントの理論を概観して、学校運営と制度に関して理解し、効果的な教育環境を構築するための知識とスキルを身につけることを目的とする。具体的には「学校の組織マネジメント」「学校と保護者・地域連携」、「信頼される学校・教師像」、「学級経営案の検討」、「教育連携モデルの提案」等の内容について講義やグループディスカッション、ケーススタディ、ロールプレイング、模擬授業等によるアクティブラーニングを通しての学修を重視する。この授業を通して学生は学校の制度や役割、目的を理解し、自ら立案した学級経営案に基づく、効果的な教育環境の構築に向けた基礎的なスキルを身につけることを目指す。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	①学校の制度や役割、目的を理解する。 ②日本の学校組織マネジメントに関する理論を概観し、学校運営の課題及び教育制度の枠組みを理解し、各種制度の特性を説明できる。 ③教職員の役割、組織運営等について学んだことを基に、自らの学級運営の理念を具現化する学級経営案を立案することができる。 ④学校と地域社会の関係を理解し、保護者や地域との協働の在り方を説明することができる。 ⑤現代の教育における課題（ICT活用と学校安全を含む）を分析し、自身の学級経営案に基づく教室デザイン及び学習環境構成プランを提案することができる。		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション (授業の目標と概要、「学校運営と制度」を学ぶ意義、学習への「問い」)【花島】	事前：初回は事前学習不要 事後：講義中の内容を復習(180分)	
2	学校組織マネジメントの理論と実際【花島】	事前：予告した内容の予習(90分) 事後：講義中の内容を復習(90分)	
3	学校と保護者・地域連携① ：保護者や地域に対する子供理解の啓発事例及びエゴグラムとアサーショントレーニングの実際【花島】	事前：予告した内容の予習(90分) 事後：講義中の内容を復習(90分)	
4	学校と保護者・地域連携② ：学校の生徒指導マニュアルの実際及びいじめや不登校、虐待事例の検討【花島】	事前：予告した内容の予習(90分) 事後：講義中の内容を復習(90分)	
5	学校と保護者・地域連携③ ：児童相談所や教育支援センター、SC・SSW等との連携【花島】	事前：予告した内容の予習(90分) 事後：講義中の内容を復習(90分)	
6	学校と保護者・地域連携④ ：教員に求められる基本的な態度及びマナー(接遇)【花島】	事前：予告した内容の予習(90分) 事後：講義中の内容を復習(90分)	

7	信頼される学校・教師像① ：指導力不足教員への法的・組織的対応【花島】	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）
8	信頼される学校・教師像② ：学校における危機管理【花島・樋口】	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）
9	信頼される学校・教師像③ ：学校でのハラスメントへの対応と予防【花島】	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）
10	信頼される学校・教師像④ ：教員の不祥事（体罰・飲酒運転・公金不正）防止への対応【花島】	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）
11	学級経営案の検討① ：学級経営の課題の整理と学級経営案の作成手順【花島】	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）
12	学級経営案の検討② ：学級経営案の相互検討【花島】	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）
13	教育連携モデルの提案① ：自身の学級経営案に基づく教室デザイン及び学習環境構成プランの立案【花島】	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）
14	教育連携モデルの提案② ：自身の学級経営案に基づく教室デザイン及び学習環境構成プランの相互検討【花島】	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）
15	振り返りと授業全体の総括【花島】	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）

#### 準備学習・事後学習等についての補足説明

#### 成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	課題レポート	ミニレポート	
40%	30%	30%	

#### 使用テキスト

書籍名	著者	出版社
テキストは使用しない。必要な資料は講義時に配布する。		

#### 参考書又は参考資料等

以下の①②は、文部科学省のホームページからダウンロードしてください。

①平成29・30・31年改訂学習指導要領（本文，解

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/1384661.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm)

②「令和の日本型教育」の構築を目指して ～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申） 中央教育審議会（令和3年1月26日）

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985\\_00002.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm)

**その他**〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

担当教員の連絡先等	
担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	教育心理学		
担 当 者 名	松本 明夫	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1301604	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2025年度後期
単 位 数	2	履 修	必修・幼稚園一種必修・小学校一種必修・保育士必修
ナ ン バ リ ン グ	DP1-1-B		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	教育心理学は、教育に関する心理学的事実や法則を明らかにし、教育の営みを効果的に促進するために役立つ知識や技術を提供するものである。教育現場では幼児、児童及び生徒の学習過程や集団心理、心身の発達の過程及び特徴等について深く理解することが求められる。本講義では、このような教育現場でのさまざまな要請に応えるために活用できる心理学の知識を身につけることを目標とする。その際、ポスターセッションやグループ討論を取り入れながら、理解を深めていく。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	1) 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を理解し、客観的に説明できるようになる。 2) 学級集団に関する心理学的知識を理解し、客観的に説明できるようになる。 3) 学習指導法に関する基礎的知識を理解し、客観的に説明できるようになる。 4) 教育評価に関する基本的な知識を理解し、客観的に説明できるようになる。 5) 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程および特徴を理解し客観的に説明できるようになる。		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	教育心理学とは何か	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること (90分) 事後：小テストに向けて、復習に励むこと (90分)	
2	子どもの育ち①－発達とは・発達段階と発達課題	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること (90分) 事後：小テストに向けて、復習に励むこと (90分)	
3	子どもの育ち②－乳児期・幼児期の発達	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること (90分) 事後：小テストに向けて、復習に励むこと (90分)	
4	子どもの育ち③－児童期・青年期の発達	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること (90分) 事後：小テストに向けて、復習に励むこと (90分)	
5	子どもの学び①－学習	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること (90分) 事後：小テストに向けて、復習に励むこと (90分)	
6	子どもの学び②－知能と記憶	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること (90分) 事後：小テストに向けて、復習に励むこと (90分)	
7	やる気を促す保育 (動機づけ)	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること (90分) 事後：小テストに向けて、復習に励むこと (90分)	
8	子どもの学びの援助 (教育方法)	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること (90分) 事後：小テストに向けて、復習に励むこと (90分)	
9	子どもの能力の評価 (教育評価)	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること (90分) 事後：小テストに向けて、復習に励むこと (90分)	
10	クラス運営 (集団心理)	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること (90分) 事後：小テストに向けて、復習に励むこと (90分)	
11	子どもの個性の理解	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること (90分) 事後：小テストに向けて、復習に励むこと (90分)	

12	配慮が必要な子どもへの対応	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
13	ポスター作成	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
14	ポスターセッション	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
15	まとめ	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：定期試験に向けて、復習に励むこと（90分）

#### 準備学習・事後学習等についての補足説明

- ・準備学習として教科書を読み、理解できない点に下線を引くなどピックアップしておくこと。
- ・事後学習として小テストに向けて復習に励むこと。

#### 成績評価の方法〔評価項目と割合〕

小テスト	リアクションペーパー	ポスターセッション	定期試験
10%	20%	20%	50%

#### 使用テキスト

書籍名	著者	出版社
『保育のためのやさしい教育心理学』	高村和代ほか	ナカニシヤ出版

#### 参考書又は参考資料等

- 『幼稚園教育要領<平成29年告示>』文部科学省 フレーベル館  
『保育所保育指針<平成29年告示>』厚生労働省 フレーベル館  
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領<平成29年告示>』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館  
『小学校学習指導要領 総則編<平成29年告示>』文部科学省 東洋館出版社

#### その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

- ・講義中に配布・回収するリアクションペーパーには講義に関する意見・感想・質問・要望等を記入すること。
- ・次回の講義時にリアクションペーパーに対してレスポンスを返します。

#### 担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	特別支援教育概論		
担 当 者 名	山田 俊之	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1301605	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2025年度前期
単 位 数	2	履 修	卒業必修・幼稚園教諭必修・小学校教諭必修・特別支援学校教諭必修
ナ ン バ リ ン グ	DP1-1-A		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>本授業は教員免許状取得のための必修科目であり、長年インクルーシブ教育に携わり、ボデイパーカッション教育などを開発してきた教員による、特別の支援を必要とする幼児児童生徒への教育の基礎的理解に関する科目である。</p> <p>日本の特別支援教育の歴史を学び、現在につながるインクルーシブ教育の重要性を学び、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害（「視覚障害」「聴覚障害」「発達障害（自閉スペクトラム症・注意欠如多動症・）」「発達障害（学習障害・グレーゾーン）」「言語障害」「吃音」、「場面緘黙」）の特性及び心身の発達を理解する。</p> <p>特別支援が必要な児童生徒が健常者と共に学習や生活できるためのインクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解できるようにする。発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解していく。</p> <p>「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解し、特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解する。さらには、特別支援教育コーディネーターの必要性を理解できるようにする。</p> <p>母国語や貧困や家庭の状況の問題、国籍、文化、習慣の違い等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性から、21世紀において不可欠の教養である「ダイバーシティ・インクルージョン社会」のあり方を理解していく。</p>		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>日本の特別支援教育の歴史を学び、現在につながるインクルーシブ教育の重要性を理解できるとともに、様々な種別の障害（知的、聴覚、視覚、肢体不自由、病弱等）があることを理解する。</li> <li>通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができる支援の必要性を学ぶ。</li> <li>個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</li> <li>本人・保護者の願いや関係者の取り組みについて、当事者の視点を身につけ合理的配慮の意味や基本的内容を理解できる。</li> <li>欧米やインクルーシブ教育発祥のイギリスの制度に学び、「ダイバーシティ・インクルージョン社会」のあり方を理解できる。</li> </ol>		
授 業 計 画	準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間		
1	オリエンテーション、障害・疾病・特別支援教育の必要性について	事前：初回は事前学習不要 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（180分）	

2	障害・疾病・特別ニーズを有する子どもの教育の歴史 「明治時代、大正時代から戦前」までの障害児教育の変遷について	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
3	障害・疾病・特別ニーズを有する子どもの教育の歴史 「戦後の昭和」の障害児教育、「平成・令和」の障害児教育から特別支援教育の変遷と現状について	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
4	障害についての各論として特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の「視覚障害」の特性及び心身の発達を理解する。の特性及び心身の発達を理解する。	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
5	障害についての各論として特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の「聴覚障害」の特性及び心身の発達を理解と支援について	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
6	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の「発達障害（自閉スペクトラム症・注意欠如多動症・）」の特性及び心身の発達を理解と支援について	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
7	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の「発達障害（学習障害・グレーゾーン）」の特性及び心身の発達を理解と支援について	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
8	障害についての各論として特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の「言語障害」「吃音」「場面緘黙」の特性及び心身の発達を理解と支援について	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
9	特別支援が必要な児童生徒が健常者と共に学習や生活できるためのインクルーシブ教育システム	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
10	「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容について理解する	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
11	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習過程の理解を深める	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
12	「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容について	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
13	教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法について	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
14	特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性について	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）

15	母国語や貧困や家庭の状況の問題、国籍、文化、習慣の違い等に対応し、世界的な流れであるダイバーシティとインクルージョンからみた特別支援教育と日本の現状について	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
----	--	---

#### 準備学習・事後学習等についての補足説明

#### 成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	ディスカッション		
50%	50%		

#### 使用テキスト

書籍名	著者	出版社
配布しない。適宜指示する。		

#### 参考書又は参考資料等

1. 加瀬進・高橋智編著 『特別支援教育総論』 一般社団法人放送大学教育振興会、2019年。

#### その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

定期試験については、各回の講義についてのレポート提出とディスカッションの様子を加味するとともに、特別支援教育の基礎的文言の理解や特別支援教育について筆記試験を実施。

ディスカッションについては、毎授業の後の理解度確認テストと学修後の学びの広がり、深まり課題意識の観点で評価。

#### 担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	教育課程・保育計画		
担 当 者 名	前川 公一、野澤 有希	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1301606	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2025年度後期
単 位 数	2	履 修	幼稚園教諭必修・保育士必修
ナ ン バ リ ン グ	DP3-1-B		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	教師は、教育・保育の計画のもつ意義を理解し、それを立案する素地的能力を身に付ける必要がある。そこで、具体的な全体的計画（教育課程）や指導計画等をもとに、学校や園での目的や目標を達成するための内容や編成の仕方、カリキュラム・マネジメントなどについて、基礎的な理解をするとともに、ワークを通して子どもの発達や生活の特徴に応じた計画立案能力を付けていくことを目指す。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	1) 教育・保育に計画及び評価が必要な理由を理解できる。 2) 全体的な計画（教育課程）の意義、その編成や展開の仕方等を理解できる。 3) 指導計画及びその種類と作成の基本について理解できる。 4) 子どもの発達や生活の特徴及びその指導計画等のあり方を具体的に理解できる。 5) 子どもの発達段階に応じた学習指導案や部分指導計画案を作成することができる。		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	教育・保育における計画の意味・・教育・保育における計画の意義やその必要性【前川・野澤】	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：重要な語句を調べ、ノートにまとめておく。(90分)	
2	日本におけるカリキュラムの基礎理論・・学習指導要領等の変遷とカリキュラムの類型【前川・野澤】	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：重要な語句を調べ、ノートにまとめておく。(90分)	
3	子ども理解に基づく教育・保育の循環：カリキュラム・マネジメントと指導計画【前川・野澤】	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：重要な語句を調べ、ノートにまとめておく。(90分)	
4	学習指導要領,保育所保育指針,幼稚園教育要領等：その性格と位置づけ【前川・野澤】	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：重要な語句を調べ、ノートにまとめておく。(90分)	
5	小学校の教育課程の編成の基本原則と方法・・基本的な考え方【前川・野澤】	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：重要な語句を調べ、ノートにまとめておく。(90分)	
6	幼稚園の教育課程の編成の基本原則と方法・・基本的な考え方【前川・野澤】	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：重要な語句を調べ、ノートにまとめておく。(90分)	
7	保育所・認定こども園等の全体的な計画の作成の基本原則と方法・・基本的な考え方【前川・野澤】	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：重要な語句を調べ、ノートにまとめておく。(90分)	
8	小学校の指導計画の作成：長期と短期の指導計画について【前川・野澤】	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：重要な語句を調べ、ノートにまとめておく。(90分)	
9	幼稚園の指導計画の作成：長期と短期の指導計画について【前川・野澤】	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：重要な語句を調べ、ノートにまとめておく。(90分)	
10	保育所・認定こども園の指導計画の作成：長期と短期の指導計画について【前川・野澤】	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：重要な語句を調べ、ノートにまとめておく。(90分)	
11	教育・保育の計画：教育・保育の質向上に資する評価の考え方と実際の方法【前川・野澤】	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：重要な語句を調べ、ノートにまとめておく。(90分)	
12	指導計画の書き方：指導計画の基本的な考え方と学習指導案や日案等の立て方【前川】	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：重要な語句を調べ、ノートにまとめておく。(90分)	

13	小学校の指導計画：学習指導案のポイント 【前川】	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：重要な語句を調べ、ノートにまとめておく。(90分)
14	幼稚園や保育園の指導計画：指導計画立案のポイント 【前川】	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：重要な語句を調べ、ノートにまとめておく。(90分)
15	小学校との接続：スタートカリキュラム、幼稚園 幼児指導要録、保育所児童保育要録等【前川・野澤】	事前：初回から14回までの内容の復習をする。(90分) 事後：講義全体をまとめ、復習をする。(90分)

### 準備学習・事後学習等についての補足説明

教科書をもとに事前・事後の学修をし、わからないことを積極的に質問するようにして下さい。

### 成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	レポート	授業への取り組み	
70%	20%	10%	

### 使用テキスト

書籍名	著者	出版社
『小学校学習指導要領解説（平成29年告示） 総則編』	文部科学省編	東洋館出版

### 参考書又は参考資料等

1. 文部科学省編『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。
2. 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館。
3. 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型こども園教育・保育要領解説』フレーベル館。
4. 監修公益財団法人児童育成協会・編集千葉武夫他『教育・保育カリキュラム』中央法規出版。

※その他授業の中で、参考書や参考文献を紹介する。

### その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

幼児教育について、具体的な指導計画案などの書き方も指導しますので、主体的な参加を期待します。本授業についての知識は、実際に教育・保育を行う際に極めて重要ですので、授業内容を理解するようにしてください。

### 担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	保育原理		
担 当 者 名	前川 公一	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1310001	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2025年度前期
単 位 数	2	履 修	保育士必修
ナ ン バ リ ン グ	DP2-1-A		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	乳幼児期の教育のあり方が将来の人間形成の基礎として極めて重要である。そのため、保育者には乳幼児を養護・教育し、心身の健やかな成長を助ける重要な責務と大きな期待が寄せられている。そこで、保育原理の授業では、公立の学校の職務経験を有する教員が、保育の意義、保育に関する法令及び制度、保育の基本保育の内容と方法、保育の思想、保育の現状と課題などについて学ぶ。学生の体験をもとに、グループワークやグループディスカッションを取り入れたT・T（ティーム・ティーチング）授業を展開する。そして、保育についての幅広い視野を養い、基礎的な知識を身に付け、よりよい保育を考える力を育てる。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	1)保育の意義や目的、保育所保育の特性について理解できる。 2)保育に関する法令及び制度について理解できる。 3)保育所保育指針における保育の基本について学び、そのねらいや内容を理解できる。 4)保育の思想と歴史の変遷について理解できる。 5)保育の現状と課題について理解できる。		
授 業 計 画	準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間		
1	オリエンテーション、保育の方向性と保育実践の基礎となる発達観	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：重要な語句を調べ、ノートにまとめておく。(90分)	
2	保育に関する諸法令などからみる保育の原理	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：重要な語句を調べ、ノートにまとめておく。(90分)	
3	保育所保育指針、幼稚園教育要領、教育・保育要領にみる保育の原理	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：重要な語句を調べ、ノートにまとめておく。(90分)	
4	養護と教育の一体化について	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：重要な語句を調べ、ノートにまとめておく。(90分)	
5	保育実践の基本構造について	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：重要な語句を調べ、ノートにまとめておく。(90分)	
6	多様な保育内容とその方法	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：重要な語句を調べ、ノートにまとめておく。(90分)	
7	子育て支援について学ぶ	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：重要な語句を調べ、ノートにまとめておく。(90分)	
8	西洋と日本の創成期	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：重要な語句を調べ、ノートにまとめておく。(90分)	
9	西洋の保育実践の発達過程	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：重要な語句を調べ、ノートにまとめておく。(90分)	
10	日本の保育実践の発達過程	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：重要な語句を調べ、ノートにまとめておく。(90分)	
11	児童中心主義の保育を探る	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：重要な語句を調べ、ノートにまとめておく。(90分)	
12	保育者の在り方を考える	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：重要な語句を調べ、ノートにまとめておく。(90分)	

13	これからの保育に向けて	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：重要な語句を調べ、ノートにまとめておく。(90分)
14	保育原理の学びの振り返り	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：重要な語句を調べ、ノートにまとめておく。(90分)
15	保育原理のまとめと評価	事前：初回から14回までの内容を復習しておく。(90分) 事後：講義全体をまとめ、整理する。(90分)

#### 準備学習・事後学習等についての補足説明

授業の中で参考図書や文献を紹介するので積極的に読んでください。新聞等を通して最新の動向を把握してください。

#### 成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	レポート	授業への取り組み	
70%	20%	10%	

#### 使用テキスト

書籍名	著者	出版社
Workで学ぶ保育原理	佐伯一弥、金瑛珠（他）	わかば社

#### 参考書又は参考資料等

授業の中で、参考図書や参考文献を紹介しますので、図書館等で積極的に読んでください。また、新聞やテレビなどを通して、最新の教育の動向や保育の課題について把握するようにしてください。

#### その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

この授業は、保育に係る様々な課題や問題について広く学ぶので、保育園や幼稚園を見学し、教育や保育の実際について、各自の体験を想起したり、イメージを膨らませたりしておいてください。

#### 担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	こども家庭福祉		
担 当 者 名	井田 智美	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1310002	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2025年度後期
単 位 数	2	履 修	保育士必修
ナ ン バ リ ン グ	DP2-1-B		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	子ども家庭福祉の意義について、また歴史的変遷や制度、実施体系などを学ぶ。子育て家庭の現状を理解した上で、児童虐待・DVなど様々な社会問題、支援のあり方や課題についてディスカッションしながら進めていき、子ども家庭福祉に携わる専門家に必要とされる資質・能力の向上を目指す。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	1.子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する 2.子ども家庭福祉の制度と実施体系等について理解する 3.子どもの人権擁護について理解する		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	子ども家庭福祉を考える視点	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
2	子どもの社会的特性と必要とされる配慮	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
3	子どもと子育て家庭の現状 子どもの育ち、子育てのニーズ	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
4	戦後の子ども家庭福祉通史	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
5	子ども家庭福祉の基本理念 子ども家庭福祉の法体系	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
6	子ども家庭福祉の実施体制	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
7	子ども家庭福祉の計画的進展と子ども・子育て支援制度の創設	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
8	子育て・子育ての経済的支援サービスと子どもの貧困対策	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
9	母子保健サービス 地域子育て家庭支援サービス	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
10	保育サービス	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
11	子ども育成サービス 障害・難病児童福祉サービス	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
12	社会的養護サービス	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
13	非行、心理的問題抱える児童の福祉サービス	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	
14	ひとり親家庭福祉と配偶者からの暴力防止のためのサービス	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)	

15	子ども家庭福祉と援助活動	事前：テキストの範囲を読んでおく。(90分) 事後：講義の内容をテキストで復習する。(90分)
<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>		
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>		
定期試験	提出物	
70%	30%	
<b>使用テキスト</b>		
書籍名	著者	出版社
『子ども家庭福祉論 第8版』	柏女霊峰著	誠信書房
<b>参考書又は参考資料等</b>		
1. 中央法規編『子ども家庭福祉小六法 令和6年版』中央法規、2023年12月。 2. 櫻井奈津子編『保育と子ども家庭福祉』みらい、2019年3月。 3. 宮島清・山縣文治『ひと目でわかる保育者のための子ども家庭福祉データブック 2024』中央法規、2023年12月。 4. 新保幸男、小林理編『子ども家庭福祉 第2版』中央法規、2023年1月。 5. 吉田眞理『児童の福祉を支える子ども家庭福祉』萌文書林、2023年12月。 6. 厚生労働省『保育所保育指針<平成29年告示>』フレーベル館。 7. 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領<平成29年告示>』フレーベル館。		
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕</b>		
<b>担当教員の連絡先等</b>		
担当教員E-mail	その他	

授 業 科 目 名	社会福祉		
担 当 者 名	田中 文佳	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1310003	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2025年度前期
単 位 数	2	履 修	保育士必修
ナ ン バ リ ン グ	DP2-1-A		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	社会福祉士として自治体での勤務経験を有する教員が、社会保障の意義と制度の概要、現代社会の社会福祉の課題について講義する。目まぐるしく変化する社会状況と山積する様々な生活課題に触れ、利用者支援の理念と実際について学習する。また、こどもを取り巻く環境とともに、こども家庭支援の課題と今後の取り組みについても理解を深める。様々な視聴覚教材、新聞、ニュース等の資料を活用した授業を通して、社会福祉の現状と課題への意識化を目指していく。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	1. 現代社会における複雑かつ多様な社会福祉ニーズとその背景を構造的に理解し、様々な社会課題に関する方策を考察できる。 2. 社会福祉の法制度及び実施体系を理解している。 3. 地域福祉推進の視点を養い、地域共生社会の理念と重要性について説明できる。 4. 個々のケースに応じた支援策について、社会保険や社会福祉のサービスを組み合わせて具体的に考察できる。		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	現代社会の動向と社会福祉 ① 私たちを取り巻く社会の動向 ② 家族の機能とコミュニティの変容 ③ 人口減少、少子高齢社会の課題	事前：テキストの指定範囲を読んでおく(90分) 事後：テキストを参考に学習プリントに記入する(90分)	
2	社会福祉の歴史と展開 ① 世界の社会福祉の歩み ② 日本の社会福祉の歩み	事前：テキストの指定範囲を読んでおく 確認テストの準備をする(90分) 事後：確認テストの振り返りをする(90分)	
3	社会福祉の理念と概念 ① 尊厳の尊重と自立の支援 ② ソーシャルインクルージョンと地域共生社会 ③ 生活モデルとICFの捉え方	事前：テキストの指定範囲を読んでおく(90分) 事後：テキストを参考に学習プリントに記入する(90分)	
4	社会福祉に関連する法律 ① 社会保障の構造 ② 社会福祉に関連する法律	事前：テキストの指定範囲を読んでおく(90分) 事後：テキストを参考に学習プリントに記入する(90分)	
5	社会福祉の実施体系 ① 行政機関 ② 民間専門機関・団体 ③ 社会福祉の財源	事前：テキストの指定範囲を読んでおく 確認テストの準備をする(90分) 事後：確認テストの振り返りをする(90分)	
6	社会保障の意義と制度(1) ① 社会保障と私たちの暮らし ② 社会保障の概念と体系	事前：テキストの指定範囲を読んでおく 確認テストの準備をする(90分) 事後：確認テストの振り返りをする(90分)	

7	社会保障の意義と制度 (2) ① 公的扶助 (生活保護制度 社会手当) ② 社会保険 (年金保険 医療保険 介護保険)	事前：テキストの指定範囲を読んでおく 確認テストの準備をする(90分) 事後：確認テストの振り返りをする(90分)
8	社会保障の意義と制度 (3) ① 介護や育児の休業について ② 出産・子育てを支援する制度 ③ 労働に関する法律と社会保険の制度	事前：テキストの指定範囲を読んでおく 確認テストの準備をする(90分) 事後：確認テストの振り返りをする(90分)
9	子ども家庭福祉の理念と法制度 ① 子どもを取り巻く環境と子どもの権利 ② 子ども家庭福祉に関する法律と実施機関 ③ 子どもと親を支援する施策の課題	事前：テキストの指定範囲を読んでおく(90分) 事後：視聴覚学習のレポートを作成する(90分)
10	高齢者福祉の理念と法制度 ① 超高齢社会の課題と高齢者福祉の法制度 ② ケアマネジメントと地域包括ケアシステム ③ 介護福祉のICT、IOT、ロボットの活用とサービスの質	事前：テキストの指定範囲を読んでおく(90分) 事後：テキストを参考に学習プリントに記入する(90分)
11	障害者福祉の理念と法制度 ① 障害の定義とICFの考え方 ② 障害児、障害者を支える法制度 ③ 福祉用具の活用と住環境の整備	事前：テキストの指定範囲を読んでおく 確認テストの準備をする(90分) 事後：確認テストの振り返りをする(90分)
12	地域福祉と災害に対するリスクマネジメント ① 地域福祉の理念と住民主体のまちづくり ② 災害対策とインフォーマルネットワーク ③ 外国にルーツをもつ児童の支援	事前：テキストの指定範囲を読んでおく 確認テストの準備をする(90分) 事後：確認テストの振り返りをする(90分)
13	医療的ケアを要する児童の支援 ① 医療的なケアを要する児童の動向 ② 医療的ケア児に関する法制度と課題	事前：テキストの指定範囲を読んでおく(90分) 事後：テキストを参考に学習プリントに記入する(90分)
14	福祉サービスの利用支援と権利擁護 ① 利用者の権利を擁護する法制度 ② 個人情報保護の制度 ③ 消費者の利益を守る制度	事前：テキストの指定範囲を読んでおく(90分) 事後：テキストを参考に学習プリントに記入する(90分)
15	社会福祉とソーシャルワーク ① ソーシャルワークの理解 ② 社会福祉援助技術の実際 ③ 保育、教育に求められるソーシャルワークの視点	事前：まとめのプリントに記入する 確認テストの準備をする(90分) 事後：まとめのプリント及び確認テストの復習をする(90分)

### 準備学習・事後学習等についての補足説明

- ・事前にテキストの予習の範囲を伝えますので、該当する内容に目を通すようにしてください。
- ・確認プリントや書き込み資料を配布します。テキストを確認しながら予習と復習に取り組んでください。

### 成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	レポート	確認ワーク	
60%	20%	20%	

### 使用テキスト

書籍名	著者	出版社
-----	----	-----

『みらい×子どもの福祉ボックス 社会福祉』	志濃原 亜美 編	株式会社みらい
<b>参考書又は参考資料等</b>		
社会福祉小六法2025（ミネルヴァ書房） 社会保障制度 指さしガイド 2025年度版（日総研）		
<b>その他</b> 〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 確認テストは成績に反映します。内容など分からないことがあればいつでも質問に来てください。</li> <li>・ レポートや提出物は期限を厳守してください。</li> <li>・ 日頃からニュースや新聞等の様々な情報を意識するようにしましょう。</li> </ul>		
<b>担当教員の連絡先等</b>		
担当教員E-mail	その他	

授 業 科 目 名		障害児保育Ⅰ	
担 当 者 名	花田 栄子	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1310204	授 業 形 態	演習
学 年	1年	開 講 期	2025年度後期
単 位 数	1	履 修	保育士必修
ナ ン バ リ ン グ	DP2-1-B		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	障害児保育を学ぶ意義について考え、障害のとらえ方や障害のある子ども一人ひとりの発達を援助していくために、障害児支援施設での職務経験を有する教員が、保育現場に必要な専門的知識を講義する。障害の特性と保育のあり方について学び、子どもの特性やニーズに即した適切な支援方法を身につける。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	1 障害児保育の仕組み、あゆみ、制度を理解する。 2 乳幼児期の様々な障害の特徴を理解し、特徴を踏まえた支援について理解する。 3 子どもの発達に合わせ、また障害の特性に合わせた保育現場における支援のポイントを説明でき、支援の方法を身につける。		
授 業 計 画		準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間	
1	<障害児保育とは何か>障害のとらえ方・乳幼児期における障害特性	事前：テキストの範囲を読んでおく（30分） 事後：講義の内容をテキストと資料で復習する（30分）	
2	乳幼児期の発達課題と障害特性・幼児期の障害のある子どもの抱える「困り感」	事前：テキストの範囲を読んでおく（30分） 事後：講義の内容をテキストと資料で復習する（30分）	
3	<障害児保育の仕組み> 障害児保育のあゆみ、制度と形態、専門性・障害児とライフコース・乳幼児健康診査と就学相談	事前：テキストの範囲を読んでおく（30分） 事後：講義の内容をテキストと資料で復習する（30分）	
4	就学時の健康診断と就学相談・障害児保育の課題	事前：テキストの範囲を読んでおく（30分） 事後：講義の内容をテキストと資料で復習する（30分）	
5	<知的障害の特徴と保育の支援> 知的障害のとらえ方	事前：テキストの範囲を読んでおく（30分） 事後：講義の内容をテキストと資料で復習する（30分）	
6	知的障害児の認知の特徴、特徴を踏まえた支援・ダウン症児の特徴と支援のポイント	事前：テキストの範囲を読んでおく（30分） 事後：講義の内容をテキストと資料で復習する（30分）	
7	基本的な生活習慣の確立・保育現場における支援・個別配慮や小集団を利用した発達支援	事前：テキストの範囲を読んでおく（30分） 事後：講義の内容をテキストと資料で復習する（30分）	
8	<自閉症スペクトラム障害の特徴と保育での支援> 自閉症スペクトラム障害のとらえ方、認知の特性、社会性や行動の特徴、二次障害、特徴を踏まえた支援のポイント	事前：テキストの範囲を読んでおく（30分） 事後：講義の内容をテキストと資料で復習する（30分）	
9	保育現場における支援・個別配慮や小集団を利用した保育	事前：テキストの範囲を読んでおく（30分） 事後：講義の内容をテキストと資料で復習する（30分）	
10	<注意欠如・多動性障害の特徴と保育での支援> 注意欠如・多動性障害のとらえ方	事前：テキストの範囲を読んでおく（30分） 事後：講義の内容をテキストと資料で復習する（30分）	
11	注意欠如・多動性障害の特徴、行動の特徴、特徴を踏まえた支援のポイント	事前：テキストの範囲を読んでおく（30分） 事後：講義の内容をテキストと資料で復習する（30分）	
12	保育現場における支援・ADHDと二次障害	事前：テキストの範囲を読んでおく（30分） 事後：講義の内容をテキストと資料で復習する（30分）	

13	<学習障害の特徴と保育での支援> 学習障害のとらえ方、認知の特徴、不器用、特徴を踏まえた支援・保育現場における支援・保育者の理解と保育の中での個別配慮	事前：テキストの範囲を読んでおく（30分） 事後：講義の内容をテキストと資料で復習する（30分）
14	<その他の障害の特徴と保育での支援> 視覚障害児の特徴、保育・聴覚障害児の特徴、保育	事前：テキストの範囲を読んでおく（30分） 事後：講義の内容をテキストと資料で復習する（30分）
15	肢体不自由児の特徴、保育・言語障害児の特徴、保育	事前：テキストの範囲を読んでおく（30分） 事後：講義の内容をテキストと資料で復習する（30分）

#### 準備学習・事後学習等についての補足説明

--	--	--	--

#### 成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期テスト	グループ討議記録		
70%	30%		

#### 使用テキスト

書籍名	著者	出版社
『よくわかる障害児保育（第2版）』	尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子編	ミネルヴァ書房

#### 参考書又は参考資料等

1. 文部科学省『幼稚園教育要領<平成29年告示>』
2. 厚生労働省『保育所保育指針<平成29年告示>』
3. 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領<平成29年告示>』

#### その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

--	--

#### 担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
講義開始後に改めて連絡	